

1. 人文学部

I	人文学部の教育目的と特徴	1-2
II	「教育の水準」の分析と判定	1-4
	分析項目 I 教育活動の状況	1-4
	分析項目 II 教育成果の状況	1-28
III	「質の向上度」の分析	1-40

I 人文学部の教育目的と特徴

1. 人文学部の基本的な目標等

富山大学の理念及び中期目標における基本的な目標は以下のとおりである。

表A 富山大学の理念

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与する。

(出典：富山大学概要)

表B 富山大学中期目標における基本的な目標

富山大学が全学的に重視する目標は、教養教育と専門教育の充実を通じて、幅広い職業人並びに国際的にも通用する高度な専門職業人を養成することである。本学の特色は知の東西融合を目指すことにあり、この点を生かしつつ、地域と世界の発展に寄与する先端的な研究を推進する。そして、東アジア地域をはじめ諸外国の教育研究機関と連携しつつ、国際的な教育・研究拠点となることを目指す。また、地域と時代の課題に積極的に取り組み、社会の要請に応える人材を養成し、産学官の連携と地域への生涯学習機会の提供などを通じて、地域社会への貢献を行っていく。

(出典：富山大学中期目標)

この目標を達成するために、人文学部は以下の教育研究上の目的を定めている。

表C 人文学部の教育研究上の目的

本学部は、人類の精神的遺産を継承し発展させ、国内外の現代的諸問題に対する深い洞察力を育成し、もって地域社会・国際社会に貢献することを目的とする。

(出典：富山大学人文学部規則)

この目的を達成するために、人文学部では以下の能力を備えた人材の育成を企図した教育を行っている。

表D 人文学部で身につける能力

- ・人間や社会にかかわる課題を発見し解決に導くために調査、分析し、思考、表現する力を身につけている。
- ・異なる背景を持つ人々との協働の中で、責任ある行動を取ることができる。
- ・異文化コミュニケーション能力を含め、他者との確に情報を共有し発展させるスキルを身につけている。
- ・人文科学、社会科学、自然科学の諸分野を総合的にとらえる視野を身につけ、多文化共生社会を文化的かつ健康的に生きることができる。
- ・人文学の知の遺産を継承し、文化的多様性と歴史性をふまえた人間と社会についての深い洞察力を身につけ、現代的課題に対処することができる。

(出典：人文学部学位授与方針より抜粋)

2. 人文学部の特徴（特色）

本学部は、昭和 52 年に旧富山大学文理学部を改組して設置された。社会や地域の要請に応えるため、平成 5 年と同 9 年の改組を経て、同 17 年には専門深化型分野と学際型分野が連携して学生を教育すべく 1 学科 7 講座 9 コースの体制へとさらに改組し、現在に至っている。

本学部の教育の特徴は次の通りである。

- ①入学定員は 185 名である。一般入試（前・後期）、推薦入試、帰国生徒及び社会人入試、第 3 年次編入学試験、私費外国人留学生入試を行い、多様な受験機会を設けている。
- ②教養教育では、社会科学と自然科学の科目の単位とともに、英語とその他の外国語の計 2 外国語の単位を卒業要件としている。
- ③ 1 年次前期に必修の専門科目を設け、大学教育への導入を行っている。
- ④専門教育では、伝統的な人文学の基礎研究分野や主に現代的諸問題を扱う分野に加え、人文系学部でも希少な考古学や文化人類学、朝鮮言語文化やロシア言語文化を含む多様な分野の教育を行っている。学生が人文学の様々な分野に触れつつ自らの専門分野を深化させるよう、柔軟なカリキュラムを編成している。
- ⑤ 7 種の外国語（留学生対象の日本語を含む）を開講し、実践的な語学力を養っている。
- ⑥主に東アジアの国々の大学と交流協定を結び、学部独自の奨学金制度等で留学生の派遣と受入を推進している。
- ⑦ 1～3 年次にわたる体系的なキャリア教育を提供するとともに、教員免許状や学芸員、社会調査士、認定心理士の資格取得等に必要な科目を開講している。
- ⑧指導教員等を通じて、1 年次から学生生活全般についてきめ細かな指導を行っている。平成 27 年度からは、毎年度、保証人への成績通知を行っている。
- ⑨毎学期、全ての専門科目について学生による授業評価アンケートを行うとともに、教員研修会を定期的で開催し、教員の教育力向上に努めている。また、シラバスを改善し、成績評価に対する異議申立て制度を設けて、成績評価の厳格化に努めている。

[想定する関係者とその期待]

1. 富山県下唯一の人文系高等教育機関としての役割

富山県下で人文学を学べる唯一の学部として、富山県とその近県の学生等からの本学部への期待は大きい。地元の自治体や企業からも、人文学の知見を活かして地域社会に貢献できる人材の育成が期待されている。また、地域住民からは生涯学習への貢献が期待されている。

2. 近隣諸国との交流促進のための役割

地元自治体や企業から、主に東アジア諸国やロシア等との交流を促進できる人材の育成が期待されている。また、外国籍の住民が増えつつある地域社会から、多文化共生のための知見を備えた人材の育成が期待されている。

3. 希少な教育研究分野の維持・発展のための役割

本学部の教育研究分野には、人文系学部でも希少な考古学や文化人類学、朝鮮言語文化やロシア言語文化などが含まれる。社会からの需要が恒常的にあるとは言い難いこれらの分野を維持し発展させることは国立大学法人こそが負うべき責務であり、本学部はその責務を果たす役割を担う。

4. 富山大学の教養教育における役割

本学の教養教育における外国語及び人文科学の科目の主要な担い手として、学生の言語能力の向上と幅広い人文学的教養の涵養に貢献することを期待されている。

Ⅱ 「教育の水準」の分析・判定

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

①入学者選抜の実施体制

本学部が求める学生像及び入学者選抜で課す科目等は以下の通りである（資料1-1-1-1, 1-1-1-2）。求める学生像に合致した入学者を選抜するため、基礎学力に加えて、倫理的思考力、文章読解力及び文章表現力をみる個別学力検査を行っている。

資料1-1-1 求める学生像

1. 人文学を幅広く、深く学ぶために必要な基礎的能力をもっている人
2. 人文学諸分野に知的関心をもち、人間についての理解を深めたいと考えている人
3. 異文化を理解し、多文化共生社会の中で他者と豊かな関係を築きながら自己の成長をめざす人
4. 柔軟な思考力、幅広い視野と国際感覚を身につけ、地域社会や国際社会に貢献する市民となることをめざす人

(出典：人文学部入学者受入方針より抜粋)

資料1-1-2 平成27年度入学者選抜の実施教科・科目等

入試区分		大学入試センター試験	個別学力検査
一般入試	前期日程	6教科7科目, 6教科8科目, 5教科7科目又は5教科8科目	「国語」「外国語」
	後期日程	5教科5科目又は5教科6科目	小論文
推薦入試		3教科3科目	小論文

(出典：平成27年度富山大学入学者選抜要項より抜粋)

また、外国語と小論文のみを課す帰国生徒・社会人入試、さらに私費外国人入試や第3年次編入学試験を行い、多様な学生を受入れている（資料1-1-3, 1-1-4, 1-1-5）。

資料1-1-3 帰国生徒（平成26年度までは帰国子女）・社会人入試の実施状況

年度	対象	募集人員	出身県等	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
22年度	帰国子女	若干名	海外	1	1	1	1
	社会人	3	富山	1	1	1	1
			計	2	2	2	2
23年度	帰国子女	若干名	海外	1	0	0	0
	社会人	3	富山	1	1	1	1
			海外	1	1	0	0
			計	3	2	1	1
24年度	帰国子女	若干名	海外	2	2	1	0
	社会人	3	京都	1	1	0	0
			計	3	3	1	0
25年度	帰国子女	若干名	海外	0	0	0	0
	社会人	3	富山	1	1	1	1
			計	1	1	1	1
26年度	帰国子女	若干名	海外	1	1	0	0
	社会人	3	福島	1	1	1	1
			計	2	2	1	1

富山大学人文学部 分析項目 I

27年度	帰国生徒	若干名	海外	4	3	2	2
	社会人	3	岐阜	1	1	0	0
			計	5	4	2	2

(出典：人文学部総務課にて調査)

資料1-1-4 私費外国人入試の実施状況

年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学手続者数	入学者数
22年度	若干名	20	17	4	3	3
23年度	若干名	20	17	7	7	6
24年度	若干名	8	4	2	2	2
25年度	若干名	5	5	3	3	3
26年度	若干名	8	8	3	3	3
27年度	若干名	5	4	2	1	1

(出典：人文学部総務課にて調査)

資料1-1-5 3年次編入学試験の実施状況

年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学手続者数	入学者数
22年度	7	58	40	13	10	10
23年度	7	45	36	12	11	11
24年度	7	38	30	9	7	7
25年度	7	37	34	9	8	8
26年度	7	41	33	11	7	7
27年度	7	38	26	9	9	9

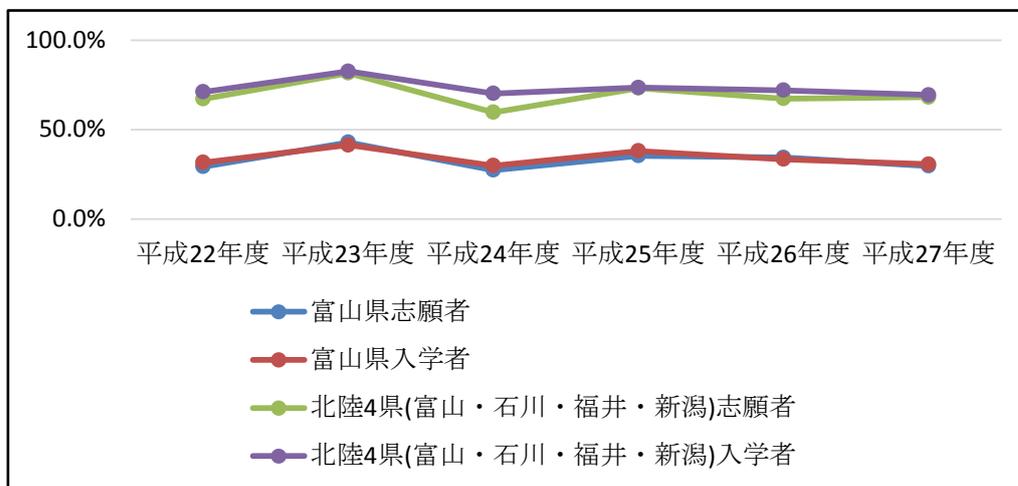
(出典：人文学部総務課にて調査)

学生数は、毎年度、定員を上回っている。志願・受験者の約7割が北陸三県及び新潟県の出身者であり、その約半数は富山県出身者である。つまり、本学部は北陸地域での人文系教育の需要の主要な受け皿となっており、その傾向は特に前期日程入試と推薦入試で安定的に見られる（資料1-1-6，1-1-7，1-1-8，1-1-9）。

資料1-1-6 学生の入学・在籍状況

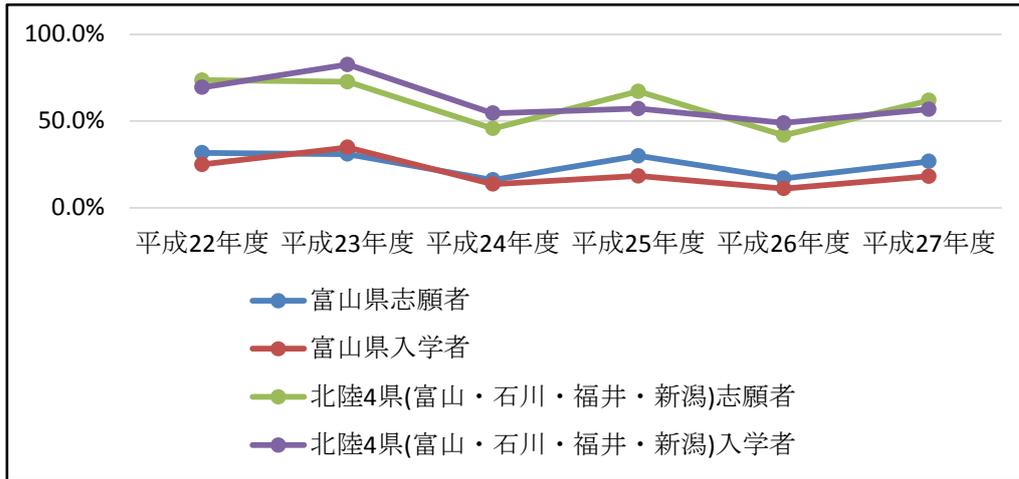
データ分析集法人別経年変化データ指標1～7

資料1-1-7 地域別志願者・入学者比率の推移（一般入試前期日程）



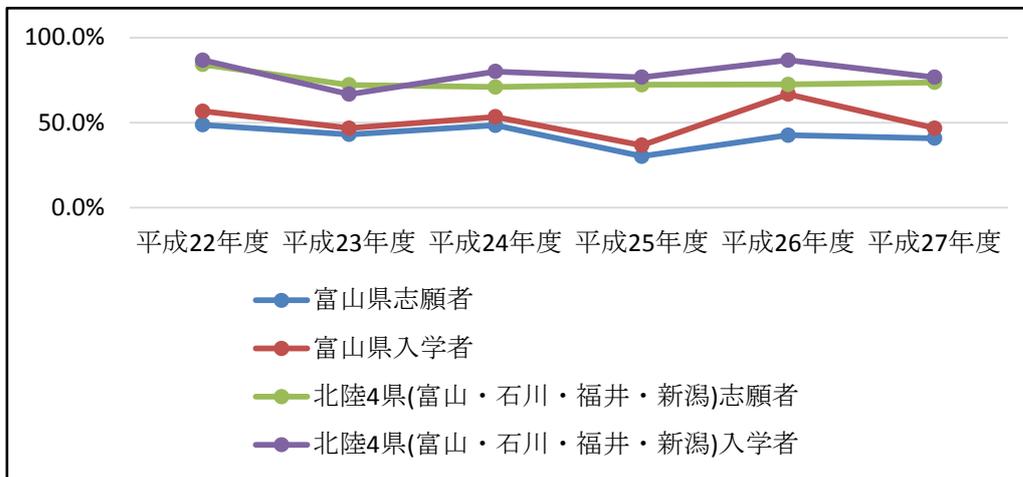
(出典：人文学部総務課にて調査)

資料 1-1-8 地域別志願者・入学者比率の推移（一般入試後期日程）



(出典：人文学部総務課にて調査)

資料 1-1-9 地域別志願者・入学者比率の推移（推薦入試）



(出典：人文学部総務課にて調査)

②教養教育の実施体制

本学部の教員は、本学の教養教育における外国語及び人文科学の科目の主要な担い手として、学生が言語能力を高め、幅広い人文的教養を身につけることに貢献している（資料 1-1-10, 1-1-11, 1-1-12）。

資料 1-1-10 平成26年度教養教育（五福キャンパス）における人文学部教員の授業担当比率

部局 事項	人文	人間発達	経済	理	工
担当比率	25.4%	13.6%	7.9%	4.3%	4.8%
教員比率	17.6%	18.6%	17.8%	19.2%	23.0%

・担当比率：各学部所属教員担当コマ数／教養教育の授業総コマ数
 ・教員数比率：所属教員数／五福キャンパス教員総数（教員数には助教，助手を含まない。教員数は平成26年5月1日現在。）
 ・人文学部の担当教員数，比率には外国語教育専任教員を含む。
 ・開講コマ数には経済学部夜間主コースを含む。

(出典：富山大学学務部にて調査)

富山大学人文学部 分析項目 I

資料1-1-11 平成26年度教養教育(五福キャンパス)における人文学部教員の外国語科目担当比率

科目	人文学部教員数/当該科目担当教員総数(平成26年度)	26年度担当比率	科目	人文学部教員数/当該科目担当教員総数(平成26年度)	26年度担当比率
英語 A	11/15	34.4%	中国語 A	6/6	47.1%
英語 B		100%	中国語 B		0.0%
ドイツ語 A	3/3	15.8%	朝鮮語 A	2/2	75.0%
ドイツ語 B		50.0%	朝鮮語 B		100.0%
フランス語 A	2/2	50.0%	日本語 A	1/7	12.5%
フランス語 B		0.0%	日本語 B		14.3%
ロシア語 A	3/3	50.0%	ラテン語 B	1/1	100.0%
ロシア語 B		50.0%			
担当比率：人文学部教員担当コマ数/当該科目の開講コマ総数					

(出典：富山大学学務部にて調査)

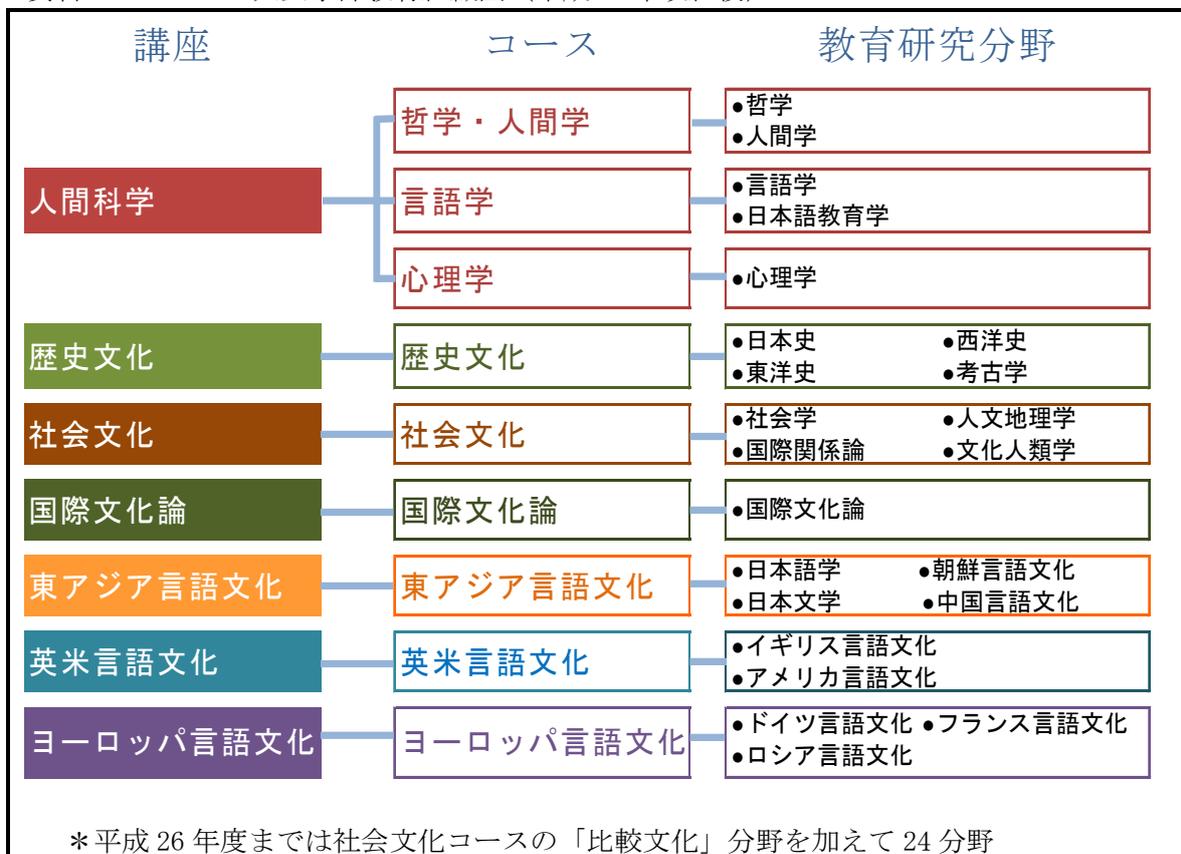
資料1-1-12 人文学部教員担当の教養授業科目(五福キャンパス)一覧(平成27年度)

別添

③専門教育の実施体制

1学科7講座9コースのもとに23の教育研究分野を擁し、各分野にバランスよく教員が配置されている(資料1-1-13, 1-1-14-①, 1-1-14-②)。

資料1-1-13 人文学部教育組織図(平成17年改組後)



*平成26年度までは社会文化コースの「比較文化」分野を加えて24分野

(出典：『人文学部学部案内2016』より抜粋)

富山大学人文学部 分析項目 I

資料 1-1-14-① 平成 26 年度講座・コース別教員配置状況

コース 職種	人間科学			歴史文化	社会文化	国際文化論	東アジア 言語文化	英米言語 文化	ヨーロッパ 言語文化
	哲学・人間学	言語学	心理学						
教授	2	4	1	4	3	4	9	8	4
准教授	3	1	2	4	6	3	3	1	3
講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	5	5	3	8	9	7	12	9	7

(出典：人文学部総務課にて調査)

資料 1-1-14-② 平成 26 年度コース別教員配置状況

コース	教育研究分野	教員数	コース	教育研究分野	教員数
哲学・人間学	哲学	2	社会文化	国際関係論	2
	人間学	3		比較文化	1
言語学	言語学	3	国際文化論	国際文化論	7*
	日本語教育学	1	東アジア言語文化	日本語学	2
心理学	心理学	3		日本文学	3
歴史文化	考古学	2		中国言語文化	4
	日本史	2	朝鮮言語文化	2	
	西洋史	1	英米言語文化	イギリス言語文化	4
	東洋史	3		アメリカ言語文化	5
社会文化	社会学	2	ヨーロッパ言語文化	ドイツ言語文化	3
	人文地理学	2		フランス言語文化	2
	文化人類学	2		ロシア言語文化	2

*国際文化論は日本関係 1 名、朝鮮関係 1 名、中国関係 2 名、ロシア関係 2 名、アメリカ関係 1 名

(出典：人文学部総務課にて調査)

1 年次の専門科目として各分野の入門的科目を開講しており、1 年生は入学直後から人文学の多様な分野の基礎を学ぶことができる（資料 1-1-15）。

資料 1-1-15 1 年次生向け専門科目（平成 27 年入学生）

配当年次・学期	授業科目区分	担当教員の所属講座・コース・教育研究分野	授業科目名	単位数
1 年次 前学期	学部共通	全	基礎ゼミナール（必修）	2
		人間科学	人間科学入門	2
		歴史文化	歴史学入門	2
		社会文化	社会文化入門	2
		国際文化論	国際文化入門	2
		東アジア言語文化	東アジア言語文化入門	2
		英米言語文化	英米文化論	2
		ヨーロッパ言語	ヨーロッパ言語文化入門	2
1 年次 後学期	学部共通	学部教員その他	キャリア・デザイン	2
	専門基礎	哲学・人間学	宗教思想	2
			哲学講読	2
			人間学講読	2
			現代と思想	2
		言語学	言語学概論 I	2
		心理学	心理学概論 I	2
		日本史	日本史基礎演習	2
		東洋史	東洋史基礎演習	2
	西洋史	西洋史基礎演習	2	

富山大学人文学部 分析項目 I

		考古学	考古学基礎演習	2	
		国際関係論	国際関係論概論	2	
		社会学	社会学概論	2	
		人文地理学	人文地理学概論	2	
		文化人類学	文化人類学概論	2	
		国際文化論	国際文化演習	2	
		日本語学	日本語学概論	2	
		日本文学	日本文学史	2	
		朝鮮言語文化	朝鮮学入門	2	
		中国言語文化	中国文学概論	2	
			中国語学概論	2	
		イギリス・アメリカ言語文化	英文法	2	
		ドイツ言語文化	基礎ドイツ語	2	
		フランス言語文化	基礎フランス語	2	
		ロシア言語文化	基礎ロシア語	2	
		学芸員 関係	(非常勤講師による 集中講義)	(地誌学)	2
				(自然地理学)	2
				(民俗学)	2

(出典：『平成 27 年度入学生 専門科目履修の手引き』より抜粋)

1 年次前期の必修科目である「基礎ゼミナール」は、毎年度、全講座の教員が担当している。シラバスの主要項目を統一し、学部共通の導入科目としての内容を担保している（資料 1-1-16, 1-1-17）。

資料 1-1-16 担当教員所属コース別「基礎ゼミナール」開講数

コース 年度	哲学・人間学	言語学	心理学	歴史文化	社会文化	国際文化	東アジア	英米	ヨーロッパ	クラス総数
22年度	1	1	1	2	2	2	2	2	2	15
23年度	0	2	1	2	2	2	2	2	2	15
24年度	1	1	1	2	2	2	2	2	2	15
25年度	1	2	0	2	2	2	2	2	2	15
26年度	1	1	1	2	2	2	2	2	2	15
27年度	1	1	1	2	2	2	2	2	2	15

(出典：人文学部教務委員会にて調査)

資料 1-1-17 平成 27 年度「基礎ゼミナール」シラバス

授業のねらいと カリキュラム上の 位置付け (記載内容は統一)	この授業は皆さんが大学での生活を円滑に始めることができるように、大学生として基本的な姿勢を身につけることを目的としています。また、学習を進めるにあたって必要となる基礎的なスキル（リテラシー）を習得することを目的としています。 さらに、担当教員や仲間と豊かな人間関係を築き、社会人としての基礎固めをしながら、自らさまざまな問題に取り組む力を身につけることも目標としています。
達成目標 (記載内容は統一)	<ul style="list-style-type: none"> 自分で問題を発見し、自分自身の興味・関心に基づいて調べることができる。 文献や資料の探し方、図書館の使い方、文献やデータの読み取り方やまとめ方を身につける。 調べたり考察したりした結果を論理的な文章にまとめることができる。 ディスカッションに参加し、他者の意見に耳を傾け、自分の意見を述べるができる。 簡単な口頭報告やレポート作成ができる。

富山大学人文学部 分析項目 I

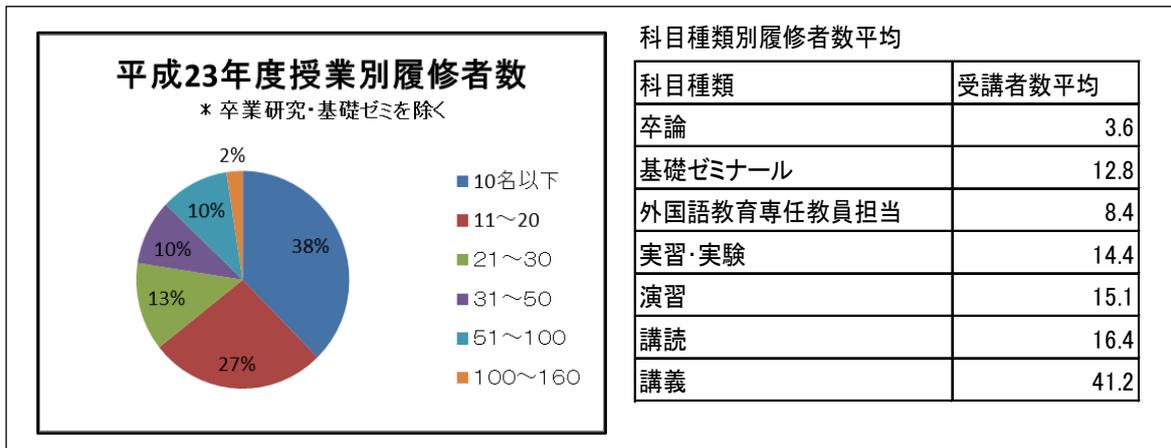
授業計画 (担当教員ごとに細部は異なる。ここに示したものは1例)	この基礎ゼミナールの概要	大学で幅広く深い教養を身につけるための基礎的技術を学ぶ。具体的には、新書レベルの本を読んで内容をまとめる、それを人に分かるように説明する、問題点を発見する、問題点について調査する、問題点について考察しそれを人と議論する、調べたり考察したりしたことを文章にまとめる、という作業を通して、理解力、洞察力、思考力、コミュニケーション力を身につける。
	第1回	ガイダンス／自己紹介
	第2回	図書館ツアー
	第3回	プレゼンテーションの方法
	第4回	プレゼンテーション&ディスカッション (1)
	第5回	プレゼンテーション&ディスカッション (2)
	第6回	プレゼンテーション&ディスカッション (3)
	第7回	プレゼンテーション&ディスカッション (4)
	第8回	プレゼンテーション&ディスカッション (5)
	第9回	プレゼンテーション&ディスカッション (6)
	第10回	プレゼンテーション&ディスカッション (7)
	第11回	情報収集とレポート作成の方法
	第12回	レポート作成 (1)
	第13回	レポート作成 (2)
	第14回	レポート作成 (3)
第15回	まとめと授業評価アンケート	

(出典：平成27年度「基礎ゼミナール」シラバスより抜粋)

2年次以降は、少人数の演習を中心に、講義、実習、実験などの多様な形態の授業が開講されている(資料1-1-18, 1-1-19)。

学生は所属講座・コースの枠を超えて教員の指導を受けることができ、他コースの授業履修による単位も卒業要件単位に算入できる(資料1-1-20)。

資料1-1-18 少人数教育



(出典：人文学部総務課にて調査)

資料1-1-19 実習・実験科目一覧(平成23年度)

学期	授業科目名	履修者数	学期	授業科目名	履修者数
前	心理学実験 I	17	前	社会学実習	11
後	心理学実験 II	15	前	社会学実習	12
前	心理学実験 III	17	前	人文地理学実習 1	7
前	心理学実験 IV	16	前	人文地理学実習 2	7
前	古文書学実習	26	後	人文地理学実習 2	7
後	古文書学実習	21	前	人文地理学実習 3	9

富山大学人文学部 分析項目 I

前	日本史実習	25	後	人文地理学実習 3	9
後	日本史実習	25	後	比較文化実習	14
前	考古学実習	6	前	文化人類学実習 1	13
後	考古学実習	12	後	文化人類学実習 2	13
後	博物館実習 I	29	前	文化人類学実習 3	14
前	博物館実習 II	52	後	文化人類学実習 4	14
前	西洋史実習	5	前	国際文化実習	10
前	東洋史実習	7	前	国際文化実習	15
前	国際関係論実習 (1)	8	後	国際文化実習	15
後	国際関係論実習 (1)	11			
前	国際関係論実習 (2)	6			
後	国際関係論実習 (2)	8			

(出典：人文学部総務課にて調査)

資料 1 - 1 - 20 他コースの授業履修による卒業要件単位 (選択単位 B)

2 専門科目の単位について

専門科目 84 単位の種類は以下の通りです。

単 位 の 種 類		
必修単位		①人文学部の学生が全員修得しなければならない科目の単位
		②当該コースの学生が全員修得しなければならない科目の単位
選択単位	選択単位 A	①人文学部の学生が全員、指定された科目群から選択して修得しなければならない科目の単位 ②当該コースの学生が全員、指定された科目群から選択して修得しなければならない科目の単位
	選択単位 B	必修単位及び選択単位 A として修得した以外の人文学部専門科目の単位

(出典：『平成 27 年度入学生 専門科目履修の手引き』より抜粋)

外国語教育は、朝鮮語やロシア語を含む 6 種の外国語 (留学生向けの日本語を除く) を日本人と母語話者の教員から学べる体制が整っている (資料 1 - 1 - 21)。

資料 1 - 1 - 21 母語話者による授業一覧 (平成 23 年度)

学期	授業科目名	教員	学期	授業科目名	教員
前	中国語コミュニケーション (会話) *	専任	前	ドイツ語コミュニケーション (会話) II *	専任
後	中国語コミュニケーション (会話) *		後	ドイツ語コミュニケーション (会話) II *	
前	中国語コミュニケーション (作文)		前	ドイツ語コミュニケーション (作文) 初級	
後	中国語コミュニケーション (作文)		後	ドイツ語コミュニケーション (作文) 初級	
	中国文化論	前	ドイツ語コミュニケーション (作文) 中級		
前	朝鮮語コミュニケーション (会話) *	非常勤	後	ドイツ語コミュニケーション (作文) 中級	
後	朝鮮語コミュニケーション (会話) *	専任	前	実践フランス語演習 I	非常勤
前	英語コミュニケーション (会話) I *		後	実践フランス語演習 I	
後	英語コミュニケーション (会話) I *		前	フランス語コミュニケーション II	
前	英語コミュニケーション (作文) I		後	フランス語コミュニケーション II	
後	英語コミュニケーション (作文) I		前	実践ロシア語演習 I	専任
前	英語コミュニケーション (会話) II		前	ロシア語コミュニケーション I (初級)	

富山大学人文学部 分析項目 I

後	英語コミュニケーション (会話) II		前	ロシア語コミュニケーションII (中級)
前	英語コミュニケーション (作文) II		後	ロシア語コミュニケーションII (中級)
後	英語コミュニケーション (作文) II		前	ロシア語コミュニケーションIII (上級)
前	英語コミュニケーション (会話) I (英米講座以外の学生対象)	非常勤	後	ロシア語コミュニケーションIII (上級)
			前	ロシア文化論
後	英語コミュニケーション (作文) I (英米講座以外の学生対象)		後	ロシア文化論
前	ドイツ語コミュニケーション (会話) I*	専任	前	ロシア言語文化特殊講義
後	ドイツ語コミュニケーション (会話) I*		後	ロシア言語文化特殊講義

*は、少人数クラスとするために一学期に複数の授業を開講

(出典：人文学部総務課にて調査)

他学部や他大学での修得単位も卒業要件単位として認定しており、学生の主体的学習を奨励している（資料 1-1-22, 1-1-23, 2-1-5）。

資料 1-1-22 他学部や他大学での履修による単位認定件数（教職科目を除く）

履修先	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
他学部	8	15	48	31	17	53
金沢大学	12	8	15	4	8	1

(出典：人文学部総務課にて調査)

資料 1-1-23 他学部履修による単位認定（平成26年度）（教職科目を除く）

学期	授業科目名	開講学部	単位 取得者数	学期	授業科目名	開講学部	単位 取得者数
前期	教育相談（発達教育）	人間発達	3	後期	パラグラフ・ライティング	人間発達	1
	コミュニティ心理学	人間発達	2		コンピュータ音楽演習	人間発達	1
	臨床発達心理学	人間発達	3		キャリア・デザイン論	経済	4
	精神保健	人間発達	1		地域社会学 I	経済	5
	外国語文献講読	人間発達	3		東日本大震災に学ぶ	経済	1
	音響メディア演習	人間発達	1				
	社会人への心構え	工	1				
合 計			14	合 計			12

(出典：人文学部総務課にて調査)

④国際交流促進のための体制

主に東アジアの大学との交流協定を増やすとともに、留学生対象の学部独自の奨学金制度等により、国際交流を促進している（資料 1-1-24, 1-1-25）。

派遣留学生等には、海外の大学等での成果を卒業要件単位として認定している（資料 2-1-5）。

受入れた留学生には、日本人学生がチューターとして生活全般の支援をしている（資料 1-1-26）。

資料 1-1-24 交流協定締結先一覧（網掛けは平成22年度以降新規又は再締結）

(1) 部局間協定先		
国名	大学等名	協定締結年月日
ロシア	ノヴォシビルスク大学	2001/10/30 (2011/10/14再締結)
韓国	慶北大学校人文大学	2010/07/30
ロシア	モスクワ言語大学	2013/03/22
中国	佳木斯大学	2014/06/19
ベトナム	ハノイ国家大学外国語大学	2015/12/22

(2) 人文学部が係わる大学間交流協定		
国名	大学等名	協定締結年月日
中国	遼寧大学	1984/05/09
中国	大連理工大学	1999/11/11 (2004/10/18再締結)
中国	山東大学	2002/04/01
中国	上海大学	2002/06/28 (2012/11/02再締結)
エジプト	アシュート大学	2003/02/02 (2008/07/19再締結)
韓国	国民大学校	2005/03/07
アメリカ合衆国	マーレイ州立大学	2005/09/20
台湾	国立政治大学	2014/04/14
アメリカ合衆国	ハワイ大学マウイカレッジ	2014/05/27
フランス	オルレアン大学	2015/03/04

(出典：人文学部総務課にて調査)

資料 1-1-25 人文学部独自の国際交流のための奨学金制度

事業名	給付条件
海外留学（3～12ヶ月）への奨学事業	①人文学部または人文科学研究科に在籍する学生であること。 ②学業成績が優秀であること。 ③受入れ先大学等で授業を履修することを原則とする。 ④別に総額5万円以上の奨学金支給を受けていないこと。
短期渡航（3ヶ月未満）への奨学事業	
外国人留学生への奨学事業（12ヶ月以内）	①学術交流協定に基づき人文学部または人文科学研究科において10月受入れ予定の外国人留学生。 ②別に月額5万円以上の奨学金支給を受けていないこと。
外国人留学生への生活支援（家賃補助）事業（12ヶ月以内）	①学術交流協定に基づき人文学部または人文科学研究科に受け入れる外国人留学生または日本語・日本文化研修留学生。 ②留学期間中、自ら居住するために申請者本人が住宅の賃貸契約を結び、月額2万円以上の家賃（共益費等を除く）を支払う学生。

事業名	給付額	給付方法
海外留学への奨学事業	月額2万円	原則として渡航前に全額支給
短期渡航への奨学事業	2万円	原則として渡航前に支給
外国人留学生への奨学事業	月額4万円	毎月
外国人留学生への生活支援（家賃補助）奨学事業	月額5千円	毎月

(出典：「富山大学人文学部における富山大学五福キャンパス国際交流活性化推進事業資金取扱要項」に基づき作成)

資料1-1-26 留学生向けチューター制度

○チューターとは
<ul style="list-style-type: none"> ・富山大学人文学部に入学して1, 2年の留学生の友人として, 日本語面から学習の手助けをしたり, 富山での学生生活や日常生活の手伝いをします。 ・人文学部留学生との交流活動に参加し自分の活動や行動の幅を広げます。 ・異文化交流への理解を深めるため, 教員による指導を受けます。 ・毎月のチューター会に参加します。 ・留学生や他のチューターとの交流のためのパーティや旅行にも参加します。 ・1年間の活動です(個別の活動時間は月に約4, 5時間程度からです。後は自分と相手の気持ち次第です)。
○資格
<ul style="list-style-type: none"> ・富山大学人文学部の学部生, 院生であること。 ・国際交流活動に関心があること。 ・明るく, 積極的で, 責任感があること。 ・先輩留学生がチューターになることも可能ですが, 学部の4年生以上に限ります。

(出典:チューター募集の掲示「チューター活動って何?」より抜粋)

⑤キャリア教育の実施体制

1～3年次にわたる体系的なキャリア教育を行い, 教員免許状や学芸員, 社会調査士, 認定心理士の資格取得等に必要な科目も開講している(資料1-1-27, 1-1-28, 1-2-8, 1-2-9, 2-1-2)。

資料1-1-27 平成27年度「キャリア・デザイン」(1年生対象)シラバス

授業のねらいと カリキュラム上の 位置付け	社会人生活のスタートラインにある人文学部生を対象に, 自分のこれからの人生設計を積極的に考え, 自分にとって最適の進路を目指すための情報提供と助言を行い, 自らのキャリアをデザインし, 目標に向けて努力するための手助けをしたいと思います。	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の自分の進路・人生設計に向けて積極的に取り組む姿勢を持つ。 ・自分の進路について自ら情報を得たり, 得た情報を分析することが出来る。 ・社会人として基本的に要求される能力・マナーについての知識を得る。 ・得られた情報・知識を整理し, 具体的な実践を試みる。 ・現代社会の諸問題とさまざまな職業観・進路についての知識を得る。 	
授業計画	第1回	ーキャリア・デザインとは何か, 自分の進路をどう考えるかー 大学のキャリア科目との関連と今後のキャリア形成の流れ
	第2回	大学で学んだことをどのように職業に生かすか
	第3回	男女共同参画について
	第4回	年功賃金・長期(終身)雇用と就職活動の関連
	第5回	現在の雇用情勢と将来の展望
	第6回	就職活動の流れと成功するコツ
	第7回	仕事と職業を知ろうⅠ 大学教員「研究者として生きる」
	第8回	仕事と職業を知ろうⅡ 金融業「銀行の話」
	第9回	仕事と職業を知ろうⅢ ホテル業「ホテルエとしてのキャリア形成とおもてなしの心」
	第10回	仕事と職業を知ろうⅣ マスコミ「新聞を活用しよう」
	第11回	仕事と職業を知ろうⅤ 航空・運輸業「空の安全と快適な旅のために」
	第12回	仕事と職業を知ろうⅥ 放送業「アナウンサーという生き方」
	第13回	社会人としてのマナー

第14回	人文学部生への応援歌
第15回	まとめと授業評価アンケート実施

(出典：平成27年度「キャリア・デザイン」シラバスより抜粋)

資料1-1-28 平成27年度「キャリア・デザイン演習」(2年生対象)シラバス

授業のねらいと カリキュラム上の 位置付け	講義科目「キャリア・デザイン」で学んだ事柄を発展させ、また、さまざまな職業・業界、会社について研究するとともに、グループワークによって社会人・職業人としていきることについての議論を深め、人文学部生が自分にとって最適の進路をめざすための基礎固めをした上で、実際のインターシップや就職活動へとステップアップするための演習です。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の自分の進路・人生設計に向けて積極的に取り組む準備を始める。 ・自分の進路について自ら情報を得たり、得た情報を実際に分析してみる。 ・社会人として基本的に要求される能力・マナーについての知識を得た上で行動に移す。 ・得られた情報・知識を整理し、具体的な実践を試み、結果を発表・報告する。 ・現代社会の諸問題とさまざまな職業観・進路についての知識を得、観察や分析を行なう。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 ・この授業のコンセプトについて。業界別にグループ編成 ・グループ・ディスカッション(30分)「それぞれの自己紹介と抱負」 第2回 グループワーク(企業研究はどこにするか、なぜ選んだか、訪問企業はどこにするか、そこで何を見聞するか) 第3回 グループ・ワーク(社会人としてのマナー—服装・身だしなみ・言葉遣い—) 第4回 グループワーク(キャリア・デザインのための情報戦略) 第5回 グループ・ディスカッション(DVDの視聴から①) 第6回 グループ・ディスカッション(DVDの視聴から②) 第7回 グループ・ワーク中間発表(企業研究と企業訪問の目的) 第8回 プレゼンテーションスキル(1) 第9回 プレゼンテーションスキル(2) 第10回 コミュニケーションスキル(1) 第11回 グループ・ディスカッション(DVDの視聴から③) 第12回 コミュニケーションスキル(2) 第13回 日本におけるワークライフバランスと転職のリスクヘッジ 第14回 成果発表会 第15回 まとめと授業評価アンケート実施

(出典：平成27年度「キャリア・デザイン演習」シラバスより抜粋)

⑥教育情報の発信

本学部の最新情報を随時HPで発信するとともに、富山及び近隣県の高校を定期的に訪問し教育情報を提供している(資料1-1-29, 1-1-30)。

資料1-1-29 学部HPでの教育情報の発信

別添

資料1-1-30 高校訪問や訪問受入れによる説明会等

別添

富山大学人文学部 分析項目 I

～26年度は卒論指導を継続して取り上げ、各教員が多様な卒論指導のあり方を理解し、自らの指導に応用する契機となった。また、学位授与方針や教育課程編成方針、CAP制やGPA制などの理解を深める場としても有効に機能している（資料1-1-33）。

また、毎年の「基礎ゼミナール」の報告会での議論を通じて、統一シラバスの導入など学部共通の導入科目である同科目の均質化が達成された（資料1-1-17）。

さらに、全学の「学生支援センター」等と連携して説明会等を開催するなど、様々な困難を抱える学生を支援している（資料1-1-33）。

資料1-1-33 教員研修会及び困難を抱える学生に対する支援のための説明会等一覧

年度	開催月日	名 称	参加者数	報 告 書
22年度	5月12日	学生の自殺予防説明会	57名	
	6月16日	平成22年度第1回人文学部FD研修会（①学外研修報告 ②学位授与方針と教育課程編成方針についての説明）	未集計	「平成22年度FD研修会実施報告書」I, 第1回研修会（6月16日実施）報告書
	11月17日	平成22年度第2回人文学部FD研修会（グッドプラクティス事例報告・3名の教員）	34名	「平成22年度FD研修会実施報告書」II, 第2回研修会（11月17日実施）報告書
23年度	6月22日	平成23年度第1回人文学部FD研修会（学外研修報告）	20名	「平成23年度FD研修会実施報告書」I, 第1回研修会（6月22日実施）報告書
	1月25日	平成23年度第2回人文学部FD研修会（卒論へのロードマップ）	28名	「平成23年度FD研修会実施報告書」II, 第2回研修会（1月25日実施）報告書
24年度	3月14日	発達障害学生についての説明会	8名 （当該学生所属講座の教員）	
	11月21日	平成24年度第1回人文学部FD研修会（卒論へのロードマップ Part 2）	24名	「平成24年度FD研修会実施報告書」
25年度	6月26日	平成25年度第1回人文学部FD研修会（授業評価アンケートの読み方）	21名	「平成25年度FD研修会実施報告書」
	9月11日	自殺予防対策FD研修会	58名	
	11月20日	平成25年度第2回人文学部FD研修会（卒論へのロードマップ Part 3）	20名	「平成25年度FD研修会実施報告書」
26年度	6月18日	平成26年度第1回人文学部FD研修会（卒論へのロードマップ Part 4）	23名	「平成26年度FD研修会実施報告書」
	11月12日	発達障害（傾向のある）学生の理解と対応についての説明会	57名	
	11月19日	平成26年度第2回人文学部FD研修会（CAP制、GPA制について）	30名	「平成26年度FD研修会実施報告書」
27年度	6月10日	平成27年度第1回人文学部FD研修会（不登校学生に関する現状と課題）	61名	
	11月18日	平成27年度第2回人文学部FD研修会（2014年度卒業時アンケートについて）	21名	「平成27年度FD研修会実施報告書」（28年度前学期に刊行予定）

（出典：人文学部FD委員会にて調査）

富山大学人文学部 分析項目 I

毎学期、本学部の全ての専門科目を対象に学生による授業評価アンケートを行い、結果を迅速に教員に通知して授業改善に生かしている（資料1-1-34）。

資料1-1-34 学生による授業評価アンケート質問項目

別添

また、学部独自の「シラバス作成要領」を教員に周知してシラバスを改善し、成績評価に対する異議申立て制度を設けて、成績評価の厳格化に努めている（資料1-1-35, 1-1-36）。

資料1-1-35 人文学部シラバス作成要領：必須項目

掲載項目	必須・任意	掲載内容
オフィスアワー	必須*	(例)月 13:00-14:30, 金 14:45-16:15
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け	必須	授業のねらいや概要、カリキュラム上の位置付け等について記入。
達成目標	必須	この授業を履修し、学習目標を達成できた結果、どのような能力、知識、技能を修得し、何ができるようになるかという達成目標を具体的に明示。達成目標に達しない受講学生は「不可」である認識で記入。（学生を主語に想定し、「何々することができる」と記述）
授業計画 (授業形式、スケジュール、内容の概略、必要な準備学習等)	必須	毎回の授業スケジュールと内容の概略、必要な準備学習を記入。より詳細に記入する場合は、[授業計画詳細]画面を利用。
教科書・参考書等	必須	使用しない場合は、「なし」と記入。
成績評価の方法	必須	評価方法を具体的に明示。中間試験、期末試験、小テスト、レポート、受講態度等の配分を表示。
*非常勤講師はオフィスアワーの記入不要。		

(出典：「平成26年度富山大学人文学部シラバス作成要領」より抜粋)

資料1-1-36 成績評価に対する異議申立て制度の学生への周知

成績評価に対する異議申立てについて

1. 学生は、成績評価に関し、次の各号に該当すると判断した場合は、所属する学部長に対し異議を申立てることができます。なお、成績評価の理由や根拠に関する申立ては、認められません。
 - (1)成績の誤記入等、明らかに授業科目担当教員の誤りであると思われるもの。
 - (2)シラバス（授業案内）等により学生に周知している達成目標及び成績評価の方法に照らして、明らかな誤りがあると思われるもの。
2. 学生は、前記に定める異議申立てを行う場合は、定められた期間内に「成績異議申立書」を所属学部の教務担当窓口へ提出してください。なお、「成績異議申立書」は、所属学部の教務担当窓口において配付します。
3. 「成績異議申立書」を提出した学生には、定められた期間に、結果を通知します。
4. 成績評価に対する異議申立て期間等に関する詳細については、各学期の試験・補講期間前に所属学部の掲示板に掲示します。
(以下、省略)

(出典：「成績評価に対する異議申立てについて」の掲示より抜粋)

⑨オープンクラス等の実施体制

多くの授業を市民に開放し、他部局に比して多くの受講者を受入れている（資料1-1-37）。また、教員が市民大学等の講師を務め、地域社会の知的関心に応えている（資料1-1-38-①, 1-1-38-②, 1-1-39）。

富山大学人文学部 分析項目 I

資料1-1-37 年度別オープンクラス受講者総数

部 局	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
教養教育（五福）	91	87	78	63	62	58
人文学部	118	97	109	105	93	81
人間発達科学部	14	28	36	35	31	24
経済学部	13	24	18	26	35	27
理学部	21	21	12	19	25	44
工学部	7	11	6	1	8	9
大学院経済学研究科	35	38	35	31	8	32
大学院理工学教育部	67	0	0	0	0	0
芸術文化学部	35	19	12	16	19	23
教養教育（杉谷）	1	1	0	0	0	3
医学部	0	0	0	0	3	3
薬学部	0	0	0	0	0	0
医学薬学教育部	0	0	0	0	0	0
合 計	402	326	306	296	284	304

（出典：富山大学学務部にて調査）

資料1-1-38-① 人文学部教員の公開講座、県民カレッジ等での講師担当件数

種 別	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
本学主催の公開講座	10*	9*	6*	3*	6*	8*
県民カレッジ等講師	3	3	7	5	4	5
市民大学等講師	8	7	11	12	14	8
その他講師	32	29	37	39	32	33
富山県立高校探究科学科での学習支援等	3	7	8	8	9	13
*それぞれ、サテライト公開講座1件を含む。						

（出典：人文学部総務課にて調査）

資料1-1-38-② 人文学部教員担当の富山大学主催公開講座（平成23年度の例）

年 度	種 別	講 座 名
23年度	公開講座	マリ・クリスティーヌと異文化の旅 -小泉八雲をテーマにして-
		地域生活学 -みんなで考える「新」富山駅-
		むかしの書物からわかる日本語の歴史
		映像で知る世界の文化
		中国語で戯曲を読もう
		ドイツ語講座初級Ⅰ
		ドイツ語講座初級Ⅱ
	外国のことばと文化を楽しく学ぶ ～これからはじめたい方～	
サテライト公開講座	音楽はどのように癒すか？音楽療法の不思議	

（出典：人文学部総務課にて調査）

資料1-1-39 県民カレッジ・市民大学等への講師派遣（平成25年度の例）

別添

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

以下の点で想定する関係者の期待に十分に答える体制となっている。

富山大学人文学部 分析項目 I

- ①富山県とその近県の高校を定期的に訪問して教育情報を提供し、これらの県出身者を中心とする多様な学生を受け入れている。
- ②希少な分野を含む23の専門分野において少人数での演習を中心に多様な授業を開講するとともに、複数分野の教員が協力して学生の教育にあたっており、教養教育と併せて、幅広い教養と高度な専門性を備えた人材を育成している。
- ③7種の外国語を学ぶ機会を提供するとともに、主に東アジアの大学等との交流協定や独自の奨学金制度などにより、国際交流を促進している。
- ④1～3年次にわたる体系的なキャリア教育を行っている。
- ⑤本学五福キャンパスの教養教育の外国語及び人文系の科目を中心的に担っている。
- ⑥多数の授業を市民に開放するなど、地域社会の人文学への関心に応えている。

また、平成22年度以降、以下の点で学生指導体制が改善されている。

- ⑦「基礎ゼミナール」を学部共通の導入科目として統一的な内容で実施する体制を確立した。
- ⑧1年生と指導教員の面談及び2～4年生の修学状況の定期的な確認を徹底し、保証人への成績通知とも併せて、学生が抱える問題を早期に発見し対応できる体制とした。
- ⑨定期的なFD活動を行い、教育と学生指導のあり方を改善している。また、シラバスの改善や成績評価に対する異議申立て制度により、成績評価の厳格化に努めている。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

本学部の学位授与方針(表 E) とそれに基づく教育課程編成方針(表 F) を策定し、それらに従ってカリキュラムマップを作成した。両方針は、オリエンテーション等で学生にも周知している。

表 E 人文学部学位授与方針

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・創造力
人間や社会にかかわる課題を発見し解決に導くために調査、分析し、思考、表現する力を身につけている。 ・責任感
異なる背景を持つ人々との協働の中で、責任ある行動を取ることができる。 ・コミュニケーション能力
異文化コミュニケーション能力を含め、他者との確に情報を共有し発展させるスキルを持つ。 ・幅広い知識
人文科学、社会科学、自然科学の諸分野を総合的にとらえる視野を身につけ、多文化共生社会を文化的かつ健康的に生きることができる。 ・人文学に関する専門的知識
人文学の知の遺産を継承し、文化的多様性と歴史性をふまえた人間と社会についての深い洞察力を身につけ、現代的課題に対処することができる。 |
|--|

(出典：人文学部学位授与方針)

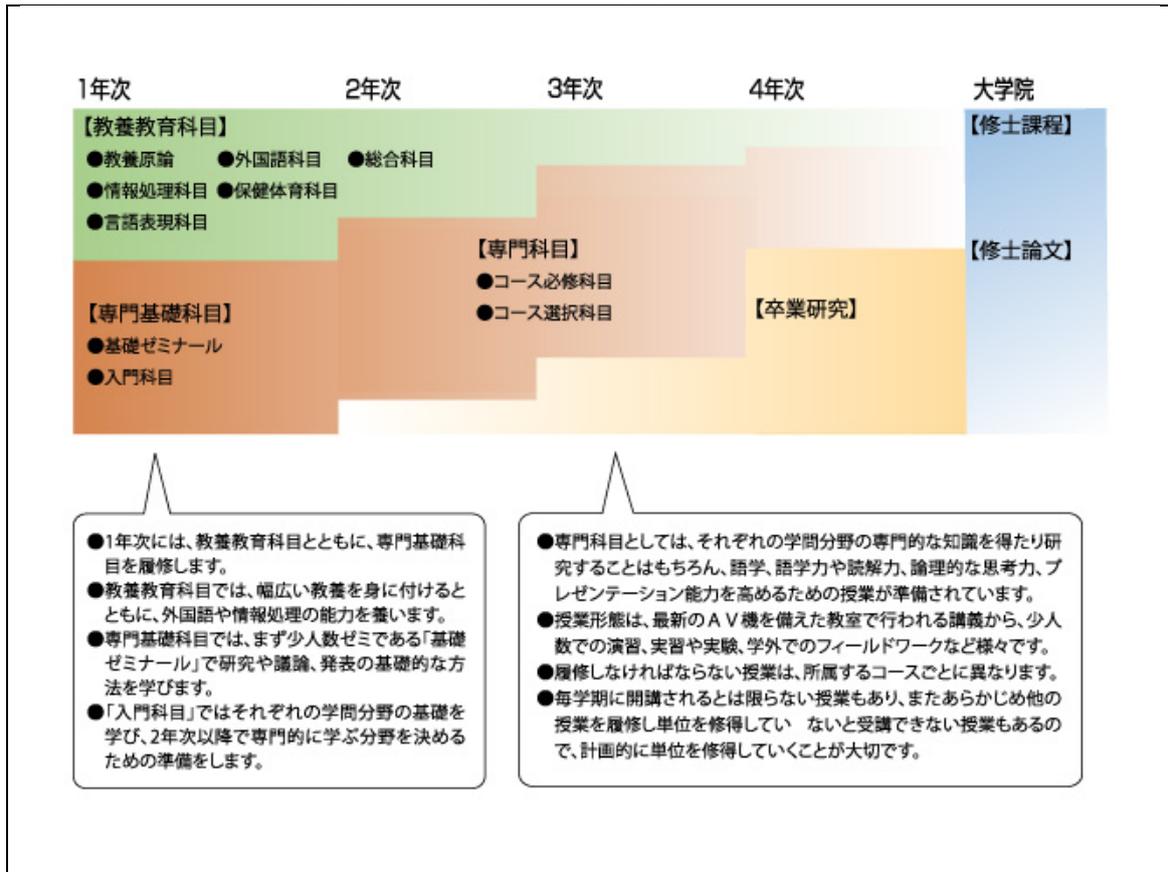
表 F 人文学部教育課程編成方針

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・様々な観点から人間に対する理解を深め、自立した市民として現代を生き抜く知見を身につけるために、人文学の入門科目とともに教養科目を提供します。 ・多様な集団・組織の中で、意志の疎通を図り、豊かな人間関係を築きながら自己を成長させていくことができるように、基礎ゼミナール、演習、実習・実験等の専門科目とともに共通基礎科目を提供します。 ・社会の中で自分の果たすべき役割を認識して積極的に行動し、また、他者に対する責任も果たすことができるように、演習、実習・実験等の専門科目を提供します。 ・人文学の研究を通して人間のあり方を探求するとともに、ものごとを多面的にとらえる柔軟な思考力、幅広い視野と国際感覚を身につけた市民・職業人として行動することができるように、講義、講読、演習等の専門科目を提供します。 ・人文学研究に必要な基礎的スキルを習得し、人間や社会に対する深い洞察力や諸事象を多面的にとらえる柔軟な思考力を身につけ、新しい知見や価値を生み出せるように卒業研究指導をします。 |
|---|

(出典：人文学部教育課程編成方針)

上記の方針に基づき、本学部では学士課程の4年間で教養教育と専門教育が有機的・体系的に連携する構造を持った教育がなされている(資料1-2-1, 1-2-2)。

資料 1-2-1 人文学部における学士課程 4年間



(出典：人文学部ホームページより抜粋)

資料 1-2-2 卒業要件単位数

科目 \ 単位区分	必修単位及び 選択単位の合計	自由単位
教養科目 共通基礎科目	30 単位	10 単位
専門基礎科目 専門科目 卒業研究	84 単位	
計	124 単位	

*自由単位は教養教育と専門教育の任意の単位を併せて10単位。

(出典：『平成 27 年度入学生 専門科目履修の手引き』より抜粋)

学士課程の個々の段階で、以下の点を特色とする教育を行っている。

①教養教育の内容・方法

社会科学と自然科学の科目の単位を卒業要件とし、学生に幅広い教養を身につけさせている。

また、英語（平成 24 年度から必修）とその他の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語及び留学生対象の日本語から選択）の計 2 外国語の単位を卒業要件とし、学生に国際的視野と異文化コミュニケーションのための基礎的スキルを獲得させている。

② 1年次の専門教育の内容・方法

入学直後から始まる専門教育では、学生が人文学の多様な分野に触れた後に自らの専門分野を主体的に選んで学ぶという過程を重視している（資料1-1-15）。

学生は、1年次前学期に導入科目である「基礎ゼミナール」を履修し、人文学を学ぶための基礎的スキルとともに、他者との協働や責任ある行動など、社会人に必須の素養を身につける。また学生は、異なる背景や知的関心を持つ同級生及び教員と少人数クラスで学ぶことにより、多様なものごとの捉え方に触れ、人文学を学ぶ基礎力を養う（資料1-1-17）。

併せて、学生は1年次前・後学期を通じて人文学の複数分野の入門的専門科目を履修し、人文学の多様な分野の基礎を学び、自らの専攻分野を主体的に選ぶための手がかりを得る（資料1-1-15）。

③ 2年次以降の専門教育の内容・方法

学生は、各コースの「履修モデル」を参考に主に所属コースの授業を履修しつつ、他コースの授業も履修する（資料1-2-3）。複数の教員が担当する授業も多く、複数の教員から卒業研究の指導も受けられることにより、専門深化と学際性のいずれを志向する学生にも対応できる教育を提供している（資料1-2-4）。講義、講読、演習、実習、実験など多様な授業形態があり、特に受講者数20名以下の少人数・双方向型授業の比率が高いことも本学部の特色である（資料1-1-18, 1-1-19）。

さらに、地域調査等の実習や、学生が自治体と協力して地域の課題の解決に取り組むなど、アクティブラーニング型や課題解決型の授業を通じて、地域貢献を学生に体験させている（資料1-2-5）。

資料1-2-3 履修モデル例

歴史文化講座履修モデル		東アジア言語文化講座履修モデル	
日本史を学ぶ場合		日本語学を学ぶ場合	
日本史概説Ⅱ	2	日本語学演習	8
日本史特殊講義	6	日本語学講読	8
日本史演習	10	日本語学特殊講義	6
日本史実習	2	日本語学概論	4
古文書学実習	4	日本文学史	2
単位数合計	24	単位数合計	28
東洋史を学ぶ場合		日本文学を学ぶ場合	
東洋史概説Ⅱ	2	日本文学演習	8
東洋史特殊講義	4	日本文学講読	8
東洋史演習	14	日本文学特殊講義	6
東洋史講読	2	日本文学史	4
東洋史実習	1	日本語学概論	2
単位数合計	23	単位数合計	28
西洋史を学ぶ場合		朝鮮言語文化を学ぶ場合	
西洋史特殊講義	4	朝鮮言語文化演習	6
西洋史演習	12	朝鮮言語文化講読	6
西洋史講読	6	朝鮮言語文化特殊講義	2
西洋史実習	1	朝鮮言語文化概論	4
単位数合計	23	朝鮮学入門	2
		朝鮮語コミュニケーション（会話）	6
		朝鮮語コミュニケーション（作文）	2
		単位数合計	28

考古学を学ぶ場合		中国言語文化を学ぶ場合	
考古学特殊講義	6	中国言語文化演習	6
考古学講読	2	中国言語文化講読	8
考古学実習	6	中国言語文化特殊講義	4
考古学演習	8	中国文学概論	2
単位数合計	22	中国語学概論	2
		中国語コミュニケーション(会話)	4
		中国語コミュニケーション(作文)	2
		単位数合計	28

(出典：『平成 27 年度入学生 専門科目履修の手引き』より抜粋)

資料 1-2-4 学際性と専門深化：国際文化論コースカリキュラム表

別添

資料 1-2-5：地域調査実習，地域の課題解決型授業一覧

年度	教育研究分野	授業科目名等	内容
22 年度	社会学	社会学実習	①金沢市のこども図書館 ②笑いで地域を元気に ③地域興し協力隊—立山町 ④市民農園—富山市 ⑤宇奈月自立塾 ⑥地域子育て支援拠点事業
	人文地理学	人文地理学実習 3	①富山市の農村の生活と文化 ②富山市の都市空間と文化
	文化人類学	文化人類学実習 3-4	南砺市 祭礼と地域コミュニティ，伝統家屋，観光
23年度	社会学	社会学実習	①南砺市における高齢者支援 ②生き残る伝統工芸—高岡銅器 ③男性の育児参加—富山県における事例
	人文地理学	人文地理学実習 3	魚津調査 ①食糧生産と加工・流通 ②交通 ③地域社会と観光
	文化人類学	文化人類学実習 3-4	南砺市城端 道路開発，祭礼と地域コミュニティ，伝統的な食文化，伝統産業
24年度	社会学	社会学実習	①富山県在住の外国人児童の学習支援 ②富山市における児童健全育成事業 ③B級ご当地グルメで町おこし—高岡コロッケ ④高齢者雇用
		-	「新しい商店街への息吹—壮年期商店主へのインタビュー調査より」(2011 年度後期「社会調査法」調査実習報告会 2012 年 2 月 10 日 富山まちなか研究室 スライドと報告原稿をWEB公開したもの 冊子なし)
	人文地理学	人文地理学実習 2	立山ブランド再考
		人文地理学実習 3	高岡調査 ①漆器業 ②コミュニティバス ③朝市 ④若者の消費 ⑤万葉歌碑の分布
文化人類学	文化人類学実習 3-4	朝日町 農業，伝統工芸，祭礼と地域コミュニティ，限界集落，地域住民によるイベント	
25 年度	社会学	社会学実習	①「萌えキャラ」によるまちおこし(高岡市) ②ワークライフバランス施策 ③高等学校の制服着崩し行動 ④男性保育士
	人文地理学	人文地理学実習 2	立山町地域活性化のための調査・提案〔立山 TTYM プロジェクト・アイデア賞受賞〕
		人文地理学実習 3	富山市調査 ①中心市街 ②地域社会と観光
文化人類学	文化人類学実習 3-4	氷見調査 ①農業 ②漁業 ③商店街の活性化活動 ④祭礼	

富山大学人文学部 分析項目 I

26 年度	社会学	社会学実習	①アイドル・ファンの行動 ②若者の「いじられキャラ」 ③コスプレイヤー ④晩産化と女性のキャリア意識
	人文地理学	人文地理学実習 2	立山町調査 ①フィールド調査 ②立山インターカレッジコンペティション 2014 報告
		人文地理学実習 3	魚津市調査 ①経済 ②高齢者の生活空間 ③地域社会。翌年度、魚津市民啓蒙の冊子『うおづのミライはだれのもの?』を魚津市役所広報の依頼により制作。
	文化人類学	文化人類学実習 3-4	高岡調査 農業、無形文化財および有形文化財の継承・保存、祭礼、伝統工芸
27 年度	社会学	社会学実習	①富山県における男性の育児参加促進に向けた取り組み ②ご当地アイドルによる地域活性化 ③民間組織による空き家活用の特徴 ④現代のペットロス事情
	人文地理学	人文地理学実習 2	①立山町インターカレッジコンペティション 2015 提案 ②名古屋巡検
		人文地理学実習 3	氷見市調査 ①地域社会 ②商店街 ③畜産・農業
	文化人類学	文化人類学実習 3-4	南砺市(福野, 井波, 福光) 調査 無形・有形文化財の継承・保存, 祭礼, 伝統工芸, 商店街の活性化, 町並み保存, 観光, 市民主体のイベント・国際交流

(出典：人文学部総務課にて調査)

④外国語教育の内容・方法

専門教育でも、朝鮮語やロシア語を含む7種の外国語について母語話者を含む教員による実践的な教育を行っている(資料1-1-21)。

⑤国際交流の内容・方法

東アジアを中心とする諸地域の大学と交流協定を結ぶとともに、英語圏とフランス語圏に語学研修先を持つことで、希望者のほぼ全員が留学や語学研修を実現している。海外での学習成果を卒業要件単位として認定する制度も積極的に利用されている(資料1-2-6, 2-1-5)。

また、毎年度、東アジアを中心とする諸地域から一定数の留学生を受入れており、留学生と日本人学生が共に学ぶ授業や、日本人学生が留学生の生活上の助言をする「チューター制度」などを通じて、学部内に国際的環境を創出している。(資料1-2-7, 1-1-26)

資料1-2-6 国別派遣留学生数 (()は協定校への交換留学者数)

国名 年度	中国	韓国	ロシア	アメリカ	フランス	カナダ	オーストラリア	その他	合計
22 年度	6 (4)	3 (3)	2 (2)	6 (0)	9 (0)	0	0	0	26 (9)
23 年度	34 (4)	23 (10)	2 (1)	7 (0)	8 (0)	5 (0)	0	3 (0)	82 (15)
24 年度	5 (4)	11 (4)	3 (2)	14 (2)	16 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	55 (12)
25 年度	9 (7)	8 (8)	3 (1)	7 (5)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	5 (0)	36 (21)
26 年度	2 (2)	0	3 (2)	2 (1)	0	2 (0)	2 (0)	1 (0)	12 (5)
27 年度	0	1 (1)	1 (1)	3 (2)	4 (3)	0	1 (0)	2 (0)	12 (7)
合計	56 (21)	46 (26)	14 (9)	39 (10)	38 (3)	10 (0)	7 (0)	13 (0)	223 (69)

(出典：人文学部総務課にて調査)

富山大学人文学部 分析項目 I

資料1-2-7 国別受入れ留学生数（正規生，非正規生合計）

国名 年度	中国	韓国	ロシア	インドネシア	ミャンマー	台湾	キルギス	その他	合計
22年度	36	6	3	1	2	0	0	0	48
23年度	33	3	5	0	0	0	0	0	41
24年度	30	6	6	0	0	0	0	1	43
25年度	21	7	6	0	0	1	1	1	37
26年度	22	6	5	1	0	1	1	5	41
27年度	16	4	4	0	0	1	0	5	30
合計	158	32	29	2	2	3	2	12	240

（出典：人文学部総務課にて調査）

⑥キャリア教育の内容・方法

平成24年度から1年次の「キャリア・デザイン」、同27年度から2年次の「キャリア・デザイン演習」を開講し、3年次の「インターンシップ」と併せて1～3年次にわたる講義・演習・実習という体系的なキャリア教育が完成した（資料1-1-27, 1-1-28, 1-2-8, 1-2-9）。

また、希望者は教員免許状や学芸員，社会調査士，認定心理士の資格を取得している（資料2-1-2）。

さらに、教育課程外での就職支援活動も積極的に行っている（資料1-2-9, 1-2-11）。

資料1-2-8 「キャリア・デザイン」「キャリア・デザイン演習」受講状況

年度	受講者数 キャリア・デザイン	受講者数 キャリア・デザイン演習
24年度	85	—
25年度	87	—
26年度	132	—
27年度	152	27

* 「キャリア・デザイン」は平成24年度から開講のため、同23年度以前のデータなし
* 「キャリア・デザイン演習」は平成27年度から開講のため、同26年度以前のデータなし

（出典：人文学部総務課にて調査）

資料1-2-9 インターンシップ参加状況

事項	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
3年次在学学生数	207	195	190	199	197	205
申込者（対在学生比）	43(21%)	35(18%)	29(15%)	63(32%)	46(23%)	56(27%)
実習者（対在学生比）	41(20%)	31(16%)	28(15%)	59(30%)	46(23%)	45(22%)
マッチング率	95%	89%	96%	94%	96%	80%

（出典：人文学部総務課にて調査）

資料1-2-10 人文学部就職支援事業開催件数

年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
件数	7	7	8	10	8	7

（出典：人文学部総務課にて調査）

資料1-2-11 人文学部就職支援事業実績（平成25年度の例）

実施日	内 容	対象	参加者数
5月15日	進路・就職ガイダンス (講師：(株)リクルートキャリア)	3年生	141
	就職活動リスタート&公務員試験面接対策ガイダンス (講師：(株)リクルートキャリア)	4年生	22
5月	『就職の手引き』パンフレット等配布 (富山大学キャリアサポートセンター作成)	3年生	
6月19日	新入生キャリアガイダンス (講師：富山大学キャリアサポートセンター、 (株)マイナビ他)	1年生	56
7月10日	夏休み直前！就職ガイダンス (講師：(株)リクルートキャリア)	3年生	85
10月	『人文学部就職情報2013』配布	3年生	
10月23日	第1回就職支援セミナー (講師：ケーブルテレビ富山に就職した本学部卒業生)	2～4年生	約50
11月27日	第2回就職支援セミナー (講師：富山育英センターに就職した本学部卒業生)	2～4年生	約20
12月4日	第3回就職支援セミナー (講師：北陸銀行に就職した本学部卒業生)	2～4年生	約25
1月29日	4年生(内定者)との就職情報交換会 (講師：内定を得た4年生7名)	3年生	約30

(出典：人文学部総務課にて調査)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

以下の点で、想定する関係者の期待に十分に込えている。

- ① 学士課程の4年間で、教養教育と専門教育が有機的・体系的に連携する教育が行われている。
- ② 教養教育では社会科学と自然科学の科目の単位を卒業要件とし、学生に幅広い教養を身につけさせている。
- ③ 導入科目「基礎ゼミナール」を通じて、人文学の基礎的スキルとともに、異なる背景を持つ他者と協働する力など、社会人として必須の能力を学生に身につけさせている。
- ④ 専門教育では、学生は人文学の多様な分野に触れつつ、自らの専門性を深化させて卒業研究に至るといふ、学生の主体性の涵養を重視した教育がなされている。少人数での演習を中心に、講義、実習、実験など、授業形態の多様性が担保され、地域貢献に直結する課題解決型授業も定着している。
- ⑤ 7種の外国語に関して教養教育と専門教育を統合したカリキュラムが構築されており、積極的な留学生の派遣・受入と相まって、国際交流の基礎的能力や実体験を持つ人材が育成されている。
- ⑥ 1～3年次にわたる体系的なキャリア教育が行われ、各種資格を取得できるカリキュラムが提供されている。また、学部としての就職支援も積極的に行っており、学生や保証人の就職に対する高い関心に十分に込えている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

上述の特色をもった教育により、以下の成果が上がっている。

①多様なテーマに関する卒業研究

多様なテーマに関する卒業研究は、本学部の教育が個々の学生の知的関心を触発し、主体的な問題意識を育む機能を十分に果たしていることを示している(資料2-1-1)。これらの卒業研究は、複数の教員による指導や中間発表会等を経て内容を充実させて論文としての完成に至っている。

資料2-1-1 平成24年度及び平成25年度の代表的な卒業研究題目

1. 文学系卒業研究
『源氏物語』の研究—紫の上の造形の方法について—
『春秋左氏伝』から見る鄭の子産
映画 The Village における森のイメージ
『自負と偏見』における結婚相手の判断基準
映画 The Green Mile における Paul の贖罪と告解
Paul Auster の Moon Palace における月の意味
『変身』における父と子の対立
『モモ』における灰色の男たちの本質
ジュディット・ゴティエ『蜻蛉集』におけるフランスの詩と日本の和歌の比較
歴史ジュール・ミシュレによるジャンヌ・ダルクの扱いと影響
スタニスラフスキーに見るロシア演劇の〈具象化〉
ロシア昔話におけるバーバ・ヤガーと農民の持ちものの関係について
2. 人間科学系卒業研究
プラトン『国家』篇における詩人追放論の意味—哲学者と詩人のミーメーシスについて—
バークリの非物質主義における他者の存在をめぐって
母子関係における過干渉について—エーリッヒ・フロムの愛の定義によせて—
人間の幸福と、その可能性—アラン『幸福論』より—
マルチタスク習慣とワーキングメモリにおける注意制御との関連
他者存在が笑いの表出者の感情経験に及ぼす影響
高校生の勧誘の会話—日本語学習者と日本語母語話者の相違
スピノザ『エチカ』における人間の位置づけについて
大学生のマインドフルネス傾向と親の養育態度との関連
甘えと現実自己・反映的自己のズレとの関連
被服が自己効力感及び遂行行動に及ぼす影響
セネカ『生の短さについて』における理想の人間像
3. 地域文化系卒業研究
富山県ウワダイラ I 遺跡における剥片生産技術の再検討
富山方言におけるゆすり音調の出現条件について—文法面からの考察—
富山方言の方言景観と県民意識
伝統産業の産地活性化—高岡銅器を事例に—
福井県小浜市における中心商店街の変容
現代社会における祭礼と住民とのかかわり—富山県黒部市生地事例から

現代社会における高齢者と家族との共生のあり方—富山市の事例から—	
ICT 技術を使った高齢者支援の可能性 —南砺市 そくさいネット「ふれ iTV」事業を例に—	
地方都市における伝統文化の観光化について—富山県魚津市たてもん祭りを事例として	
戦後から現在における漁村地域の家屋の変容—新潟県筒石地区の事例から—	
砺波市街地における子どもの遊び空間の世代間変化	
イベントを中心としたまちづくりについての地域住民の認識—富山県小矢部市の事例—	
4. 社会問題系卒業研究	
自分探し？階層移動への欲求？—3つの渡航事例からみるワーキング・ホリデーの姿—	
希望格差の背景にあるものとは—大学生対象の質問紙調査分析—	
男性の育児休業に関する最前線—育児・介護休業法改正と現実とのギャップ—	
伝統産業の変化と衰退—京友禅染の事例より—	
日本における多文化共生社会—日系ブラジル人の事例を中心に—	
学童保育に関する施策の推移と地域における具体的事例 —社会福祉法人、NPO法人を実施主体とする事例—	
地域活性化における人の繋がり可視化—地域通貨の限界とその応用—	
発展途上国山岳地における観光化の要因とその変化 —ネパール・ナムチェバザールを事例に—	
セクシュアル・ハラスメントの判断基準—大学生を対象にした意識調査から—	
村落組織が村に果たす役割—静岡県賀茂郡南伊豆町伊浜の事例から—	
高校生の生活行動パターン—石川県金沢市の普通科高校を事例に—	
在日外国人留学生の異文化適応と課題について—富山大学外国人留学生の事例から—	
5. 海外文化系卒業研究	
オーストラリア社会におけるアボリジニ問題—アボリジニ政策を中心に—	
フランスにおけるスカーフ論争—2004年宗教的標章法を中心に—	
現在のフランス料理様式の確立に伴う食器の歴史	
上海租界の特殊性—特に行政機関について—	
独ソ戦におけるソ連赤軍勝利の要因	
バレエの変遷—宮廷バレエとロマンティック・バレエ—	
自由移民時代に渡米した日本人の道り	
旧ユーゴスラヴィアの非同盟政策の成立過程	
ヨーロッパにおける『人の移動』その自由の保障と制限 —『アラブの春』への対応に見る現状と課題—	
フィンランド政府による1990年代経済危機への対策	
コムネロス朝ビザンツ帝国諸皇帝の統治・外交政策および国内貴族との関係	
唐宋時代の死刑執行制度—覆奏から奏裁へ—	

(出典：人文学部総務課作成『卒業論文題目一覧』平成24、25年度版より抜粋)

②資格の取得等

学生は、希望に応じて教員免許状、学芸員、社会調査士、認定心理士の資格を取得している。また、規定の科目の単位を修得した学生には「日本語教育学」関係科目履修証明が発行されている（資料2-1-2）。

資料2-1-2 各種資格等取得者・申請者数

(1) 教員免許状取得者数

年 度		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
中学校 教諭	国語	1	5	9	8	6	5
	社会	5	5	5	4	4	6
	英語	6	7	7	4	7	2
	ドイツ語	0	0	0	0	0	0
	ロシア語	0	0	0	0	0	0
	中国語	0	0	0	0	0	0
	(中学校) 小計	12	17	21	16	17	13
高等学校 教諭	国語	4	7	11	8	11	4
	地理・歴史	6	8	10	8	5	7
	公民	1	1	1	4	2	5
	英語	8	9	8	4	7	2
	ドイツ語	0	0	0	0	0	0
	ロシア語	0	0	0	0	0	0
	中国語	0	0	0	0	0	0
(高等学校) 小計	19	25	30	24	25	18	
合 計	31	42	51	40	42	31	

(2) 社会調査士資格申請者数

年 度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
社会調査士申請者数	24	18	7	8	7	3

(3) 学芸員資格申請者数

年 度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学芸員申請者数	8	9	4	9	1	2

(4) 認定心理士関連科目受講者数

学期	授業科目名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
前	心理学演習	67	65	58	57	46	60
後	心理学演習	32	37	28	28	30	30
前	心理学概論Ⅱ	31	26	27	34	36	45
後	心理学概論Ⅰ	99	68	113	80	98	71
前	心理学研究法Ⅰ	14	18	15	13	15	16
前	心理学研究法Ⅱ	14	18	15	13	15	16
前	心理学実験Ⅰ	18	17	14	15	15	14
後	心理学実験Ⅱ	18	15	13	16	15	14
前	心理学実験Ⅲ	14	17	14	12	15	16
後	心理学実験Ⅳ	13	16	15	14	15	16
前	心理学特殊講義	53	50	54	44	31	81
後	心理学特殊講義	61	90	36	103	96	33
総 数		434	437	402	429	427	412

(5) 「日本語教育学」関係科目履修証明発行者数

年 度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
発行者数	8	10	10	7	7	9

(出典：人文学部総務課にて調査)

③学生の地域社会への貢献

授業の一環として行う実地調査等の成果は、学生が作成した実習報告書等で公表され、地域文化の再評価や保存に活かされるとともに、地元自治体の課題解決にも貢献している（資料2-1-3）。

資料2-1-3 実習報告書等（網掛けは富山県を中心とする地域に関する報告書）

年度	教育研究分野	報告書題目等
22年度	比較文化	平成22年度比較文化学外実習報告書 東京・鎌倉・横浜と文学
	考古学	『富山県南砺市埋蔵文化財分布調査報告6-福光地域5・井波地域1-』1~31頁
		『手繰ヶ城山古墳-測量調査報告書-』1-67頁
	人文地理学	人文地理学実習2（2010年度）報告書 商店街の比較調査報告
		人文地理学実習3（2010年度）報告書 ①富山市の農村の生活と文化 ②富山市の都市空間と文化
	日本語学	都市の地域特性とことば 近畿：奈良県高取町をフィールドとして
		平成22年度日本海総合研究プロジェクト研究報告 国際シンポジウム 多言語化する「地方」
社会学	2010年社会学実習報告書 ①金沢市のこども図書館 ②笑いで地域を元気に ③地域興し協力隊-立山町 ④市民農園-富山市 ⑤宇奈月自立塾 ⑥地域子育て支援拠点事業	
文化人類学	地域社会の文化人類学的調査20 富山県砺波市の生活文化と地域社会	
心理学	シンポジウム報告 スクールカウンセラーの専門性について考える	
23年度	人文地理学	人文地理学実習2（2011年度）報告書 商店街の比較調査報告
		人文地理学実習3（2011年度）報告書 魚津調査報告
	社会学	2011年社会学実習報告書 ①南砺市における高齢者支援 ②生き残る伝統工芸-高岡銅器 ③男性の育児参加-富山県における事例
	比較文化	平成23年度比較文化学外実習報告書 横浜と文学
	日本語学	伝統的・地方都市とことば
	国際文化論	国際文化実習報告書「大連紀行-旅順とハルピンと、時々とやま」
	文化人類学	地域社会の文化人類学的調査21 平野の小宇宙 富山県南砺市城端の生活文化
考古学	『富山県南砺市埋蔵文化財分布調査報告7-井波地域2-』1-43頁	
	『杉谷6号墳-第1次発掘調査報告書-』1-48頁	
24年度	考古学	『富山市杉谷4号墳現地説明会資料』 2012年8月
		『富山県南砺市埋蔵文化財分布調査報告書8-井口地域-』1~25頁
		『杉谷6号墳-第2次発掘調査報告書-』1~32頁
	社会学	2012年社会学実習報告書 ①富山県在住の外国人児童の学習支援 ②富山市における児童健全育成事業 ③B級ご当地グルメで町おこし-高岡コロケ ④高齢者雇用
		「新しい商店街への息吹-壮年期商店主へのインタビュー調査より」（2011年度後期「社会調査法」調査実習報告会 2012年2月10日） 富山まちなか研究室（スライドと報告原稿をWEB公開したもので冊子なし）
	文化人類学	地域社会の文化人類学的調査22 かわりゆく地域とともに生きる-富山県朝日町の文化と社会-
	比較文化	比較文化学外実習報告書（2012年度）
朝鮮言語文化	「朝鮮言語文化特殊講義」実習報告会・実習報告書（於；慶北大学校国語国文学科）	
人文地理学	人文地理学実習2（2012年度）報告書 立山町地域活性化のための地域間比較調査	
	人文地理学実習3（2012年度）報告書 高岡調査報告書	

富山大学人文学部 分析項目Ⅱ

	日本語学	伝統的・地方都市：上野—暮らしとその変化—
25年度	社会学	2013年社会学実習報告書 ①「萌えキャラ」によるまちおこし（高岡市） ②ワークライフバランス施策 ③高等学校の制服着崩し行動 ④男性保育士
	人文地理学	人文地理学実習2（2013年度）報告書 立山町地域活性化のための調査・提案
		人文地理学実習3（2013年度）報告書 富山市調査報告
	比較文化	2013年度比較文化学外実習報告書
	文化人類学	地域社会の文化人類学的調査23 人と地域が織りなす文化—富山県氷見市の調査記録—
考古学	杉谷4号墳—第1次発掘調査報告書—	
26年度	社会学	2014年社会学実習報告書 ①アイドル・ファンの行動 ②若者の「いじられキャラ」 ③コスプレイヤー ④晩産化と女性のキャリア意識
	人文地理学	人文地理学実習2（2014年度）報告書 立山町調査報告
		人文地理学実習3（2014年度）報告書 魚津市調査報告
	文化人類学	地域社会の文化人類学的調査24 受け継がれる伝統と現在—高岡・福岡に生きる人々—
考古学	杉谷4号墳—第2次発掘調査報告書—	
27年度	社会学	2015年社会学実習報告書 ①富山県における男性の育児参加促進に向けた取り組み ②ご当地アイドルによる地域活性化 ③民間組織による空き家活用の特徴 ④現代のペットロス事情
	人文地理学	人文地理学実習2（2015年度）報告書 ①立山町インターカレッジコンペティション2015提案書、発表スライド ②名古屋巡検資料
		人文地理学実習3（2015年度）報告書 氷見市調査報告 ①地域社会 ②商店街 ③畜産・農業
	文化人類学	地域社会の文化人類学的調査25 伝統と現代が重なり合うまち—南砺市福野・井波・福光—
考古学	杉谷4号墳—第3次発掘調査報告書—	

（出典：人文学部総務課にて調査）

④外国語教育の成果

学生の自主的学習の成果は、外国語検定試験等の結果による単位認定数に表れている（資料2-1-4）。また学生は、本学部で学んだ語学力を基に海外の大学等で学習成果を上げており、それらの成果は本学部の卒業要件単位等として認定されている（資料2-1-5）。

さらに、学外の外国語能力コンクールでの学生の入賞歴等も、本学部の外国語教育の成果を示している（資料2-1-6）。

資料2-1-4 外国語検定試験等による教養教育の外国語単位認定件数

年度	TOEIC	TOEFL	実用英語技能 検定試験	実用フランス 語検定試験	合計
22年度	8	0	13	0	21
23年度	8	0	18	0	26
24年度	8	0	18	1	27
25年度	8	1	6	1	16
26年度	2	1	9	0	12
27年度	7	0	13	0	20

（出典：人文学部総務課にて調査）

富山大学人文学部 分析項目Ⅱ

資料2-1-5 外国の大学等での学習成果による単位認定
 (網掛けは平成22年度以降新規の提携大学)(*は協定校以外)

年度	履修先大学等	申請者数	認定単位数
22年度	マーレー州立大学	4	8
	国民大学校	3	46
	慶北大学校	2	17
	全北大学校*	1	30
	上海大学	1	22
	サンクト・ペテルブルク大学*	1	36
	大連理工大学	2	74
	ソウル大学*	1	9
	ノヴォシビルスク大学	2	28
計	17		
23年度	マーレー州立大学	4	8
	国民大学校	3	46
	慶北大学校	2	17
	全北大学校*	1	30
	ノヴォシビルスク大学	2	28
計	12		
24年度	マーレー州立大学	6	14
	Language Studies International*	1	2
	国民大学校	4	50
	慶北大学校	2	27
	大連理工大学	1	40
	遼寧大学	1	44
	モスクワ言語大学	1	30
	トゥーレーヌ学院*	1	16
計	17		
25年度	マーレー州立大学	10	31
	上海大学	2	55
	国民大学校	2	35
	慶北大学校	1	10
	大連理工大学	3	97
	国立政治大学	1	20
	ノヴォシビルスク大学	2	41
	オルレアン大学	7	14
計	28		
26年度	マーレー州立大学	6	58
	上海大学	1	16
	慶北大学校	1	12
	ユニテック工科大学*	1	2
	オルレアン大学	10	20
計	19		
27年度	マーレー州立大学	11	48
	上海大学	1	15
	国民大学校	1	12
	モスクワ言語大学	1	24
	レーゲンスブルク大学*	1	22
	ハワイ大学マウイカレッジ	1	1
	大連理工大学	2	48

オルレアン大学	11	22
計	29	

(出典：人文学部総務課にて調査)

資料 2-1-6 外国語能力コンクール受賞歴など

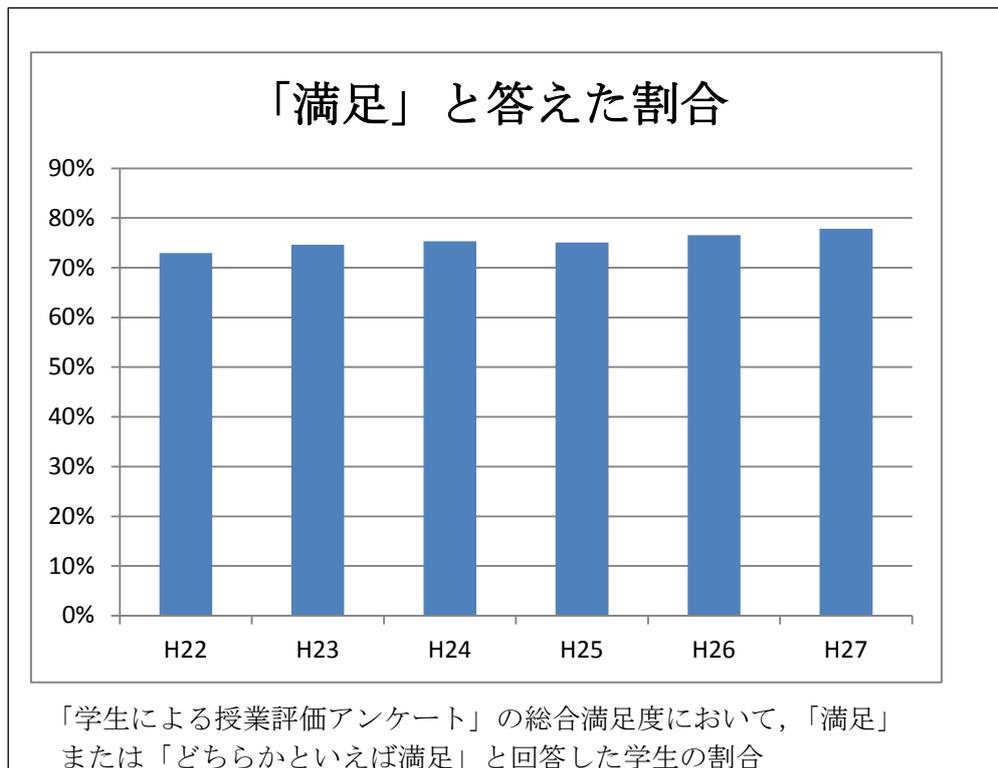
年 度	受 賞 歴 等
22 年度	第 19 回関西ロシア語コンクール上級部門第 1 位 第 10 回ロシア語スピーチコンテスト チャレンジの部（上級に相当）第 2 位
23 年度	第 20 回関西ロシア語コンクール上級部門第 1 位，中級部門第 2 位
24 年度	第 21 回関西ロシア語コンクール中級部門第 3 位 第 53 回 外国人による日本語弁論大会において，ロシアからの交換留学生が予選を通過し本大会に出場（予選出場者 117 名のうち本大会出場者 12 名）
27 年度	第 24 回関西ロシア語コンクール中級部門第 1 位，初級部門特別賞（第 4 位相当），上級部門特別賞（第 4 位相当）

(出典：人文学部総務課にて調査)

⑤学生による授業評価結果

毎学期に専門科目の全ての授業を対象に行う学生による授業評価アンケートの結果から，学生は本学部の授業に概ね満足していることがわかる（資料 2-1-7）。

資料 2-1-7 学生による授業の総合満足度



(出典：「学生による授業評価アンケート」の集計結果の抜粋からグラフ化)

⑥留年や退学の状況

留年者数は，平成 24，25 年度に増加したことを受けて学生指導に努めた結果，同 26 年度には改善した。また，留年者数は留学経験者も含むため，この数が必ずしも学業不振者数を示すわけではない（資料 2-1-8，2-1-9）。退学者数は，各年度 10 名前後で推移している（資料 2-1-10）。

富山大学人文学部 分析項目Ⅱ

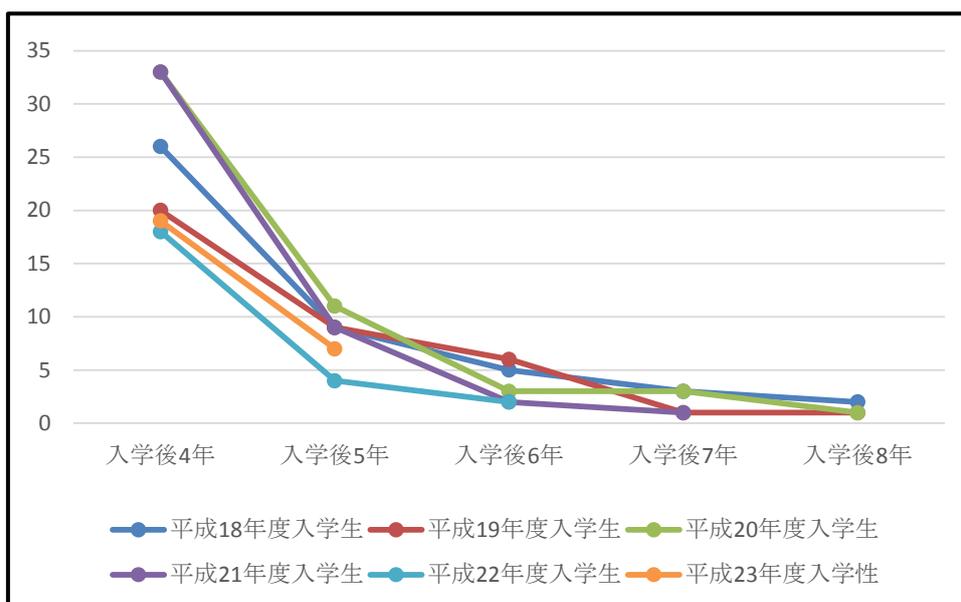
近年は、家庭の経済状況や学生のメンタルヘルス上の問題による留年や退学が増える傾向があるため、FD研修会でこれらの傾向への理解を深め、教員が個々の学生の修学状況を定期的に確認し、時機を逸することなく指導するよう努めている（資料2-1-11、2-1-12）。

資料2-1-8 留年者数及び退学者数等

種別	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	平均
留年者数	38	35	50	52	34	36	40.8
退学者数	6	8	12	11	10	8	9.2

(出典：人文学部総務課にて調査)

資料2-1-9 入学年度別留年者数の推移



(出典：人文学部総務課にて調査)

資料2-1-10 退学者の状況（入試区分別）

入試区分 \ 年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
前期日程（定員 111 人）	2	6	4	4	4	6
後期日程（同 41 人）	1	1	3	5	4	2
推薦入学（同 30 人）	1	1	3	1	2	0
私費外国人（同若干名）	1	0	1	1	0	0
編入学（同 7 人）	1	0	1	0	0	0
社会人（同 3 人）	0	0	0	0	0	0
計	6	8	12	11	10	8

(出典：人文学部総務課にて調査)

資料2-1-11 退学の理由

理由 \ 年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
進路変更	4	8	8	4	4	4
経済的理由	0	0	3	3	0	1
健康上の理由（病気療養）	0	0	1	1	1	0

富山大学人文学部 分析項目Ⅱ

他大学編入	1	0	0	2	2	0
一身上の都合	1	0	0	1	0	2
勉学意欲の喪失	0	0	0	0	0	0
修業年限で卒業不可のため	0	0	0	0	2	1
就職	0	0	0	0	1	0
計	6	8	12	11	10	8

(出典：人文学部総務課にて調査)

資料2-1-12 修学上の問題を抱える学生への組織的対応

平成26年度第1回教務委員会（平成26年4月23日開催）

審議事項

(中略)

10. 学生の単位修得状況の確認について

本学部所属の2年生以上の学生の単位修得状況を資料に基づいて確認し、履修指導等が必要な学生については本委員会委員及び各コースの教務担当者が中心となって継続的に対応していくこととした。

(以下、省略)

(出典：平成26年度第1回教務委員会報告書より抜粋)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

以下の点で、想定する関係者の期待に応える成果を上げている。

- ①希少な分野を含む多様なテーマに関する卒業研究は、本学部の教育が個々の学生の人文学への知的関心に十分に込んでいることを示している。
- ②学生が授業の一環として行う実地調査等の成果は、地域文化の再評価や保存、地元自治体の課題解決に貢献している。
- ③学生は、希望に応じて教員免許状、学芸員、社会調査士、認定心理士等の資格を取得している。
- ④海外の大学等で学ぶ学生は、本学部で修得した語学力を基に学習成果を上げており、外国語能力コンクールでの学生の入賞等も、本学部の外国語教育の成果を示している。
- ⑤学生による授業評価アンケートの結果は、学生は本学部の授業に概ね満足していることを示している。
- ⑥教員が個々の学生の修学状況を定期的に確認して指導することで、留年者や退学者を少数に抑えている。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

①進路・就職状況などから判断される在学中の学業の成果

卒業生の就職率は、平均92.2%と堅調に推移している(資料2-2-1)。

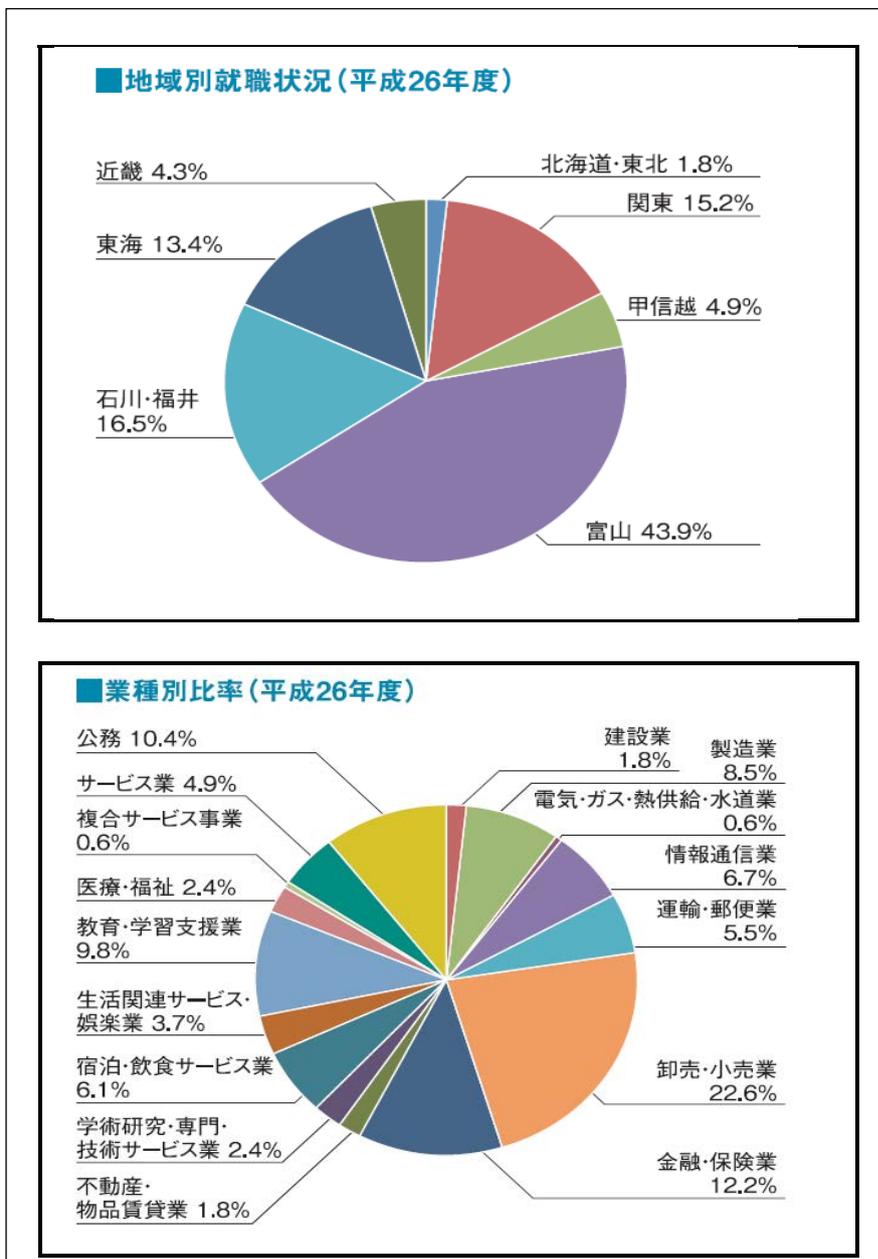
資料2-2-1 本学部卒業生の就職率

年 度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	平均
就職率	92.5%	88.4%	92.1%	92.6%	95.3%	92.3%	92.2%

(出典：人文学部総務課にて調査)

卒業生は、主に富山県とその近県において、公務員や教育機関、卸・小売業、製造業、金融・保険業など多様な業種で地域社会の中核的役割を担っている(資料2-2-2, 2-2-3)。

資料2-2-2 平成26年度就職状況



(出典：人文学部総務課にて調査)

資料 2-2-3 教員採用者数（新卒者）

種別 \ 年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
中学校教諭（臨任含む）	3	2	2	2	2	3
高等学校教諭（臨任含む）	2	3	5	2	11	1
合 計	5	5	7	4	13	4

（出典：人文学部総務課にて調査）

②在学中の学業についての卒業生及び就職先の意見とその分析

(1) 卒業時の学生アンケート結果

卒業時のアンケート結果から、問題発見・解決能力や説明能力の獲得、専門的知識と幅広い教養の両立など、本学部の学位授与方針に含まれる全ての要素に関して、卒業生は肯定的に評価していることが確認できる（資料 2-2-4）。

資料 2-2-4 平成 24 年度卒業生を対象とした卒業時アンケート結果

項 目	肯定的評価	否定的評価
創造力，問題発見・解決能力	74%	9%
責任感	82%	6%
コミュニケーション能力，外国語能力	71%	13%
プレゼンテーション能力	73%	13%
幅広い知識	70%	13%
専門的知識，文献収集・分析能力	81%	5%
人文学に関する説明・表現能力	70%	6%

（出典：平成24年度卒業生対象の卒業時アンケート）

(2) 卒業生に対する就職先企業等からの評価

平成 22～27 年度に、少なくとも 1 名の卒業生が採用された民間企業数は延べ 444 社である。そのうち 26 社には複数年度にわたり計 3 名以上の卒業生が採用されており、上記 6 年間にこれらの企業に採用された卒業生の総数は同時期の本学部の就職者総数の 15.4% を占める（資料 2-2-5）。

また、地方自治体や警察、自衛隊にも、同期間の複数年度にわたり計 3 名以上の卒業生が採用されている（資料 2-2-6）。

これらの事実は、堅調に推移している就職率とも併せて、本学部の卒業生は職業人として必要な能力を十分に身につけていると評価されていることの証左である。

資料 2-2-5 複数年度にわたり計 3 名以上の卒業生が採用された企業への就職者数
（網掛けは富山県に本社を置く企業）

業種	企業	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	総計
建設業	企業 1	1			3		1	5
製造業	企業 2	3		1	1		1	6
情報・通信業	企業 3		1	1		1		3
	企業 4	2	1	2				5
	企業 5	1	3					4
運輸・郵便業	企業 6	1		1	1			3
	企業 7	1	1		1	4	1	8
卸・小売業	企業 8				1	3		4
	企業 9			1		1	3	5
	企業 10				1	2		3
	企業 11		1			2	1	4
	企業 12				1	2		3

富山大学人文学部 分析項目Ⅱ

	企業 13	1			2			3
	企業 14	2	2	1	2	1	1	9
	企業 15		2		3			5
	企業 16	5	2	2		1	1	11
複合サービス業	企業 17				2	2		4
	企業 18			1	2		1	4
	企業 19	4	1		1	1		7
	企業 20			2	1			3
	企業 21		1	1	1			3
金融業	企業 22	7		3	1	3	3	17
	企業 23	1	1	1	1	1	1	6
	企業 24	1		1	1	2	1	6
学習支援	企業 25	1	1	2	1	1		6
医療	企業 26				2	1		3
企業 1～26 への就職者総数 (①)		31	17	20	29	28	15	140
本学部からの就職者総数(②)*		161	130	139	163	164	152	909
企業 1～26 への就職者比率 (①/②)		19.3%	13.1%	14.4%	17.8%	17.1%	9.9%	15.4%
*就職者総数は公務員等への就職者(資料 2-2-6 を参照)を含む。								

(出典：人文学部総務課にて調査)

資料 2-2-6 複数年度にわたり計 3 名以上の卒業生が採用された官公庁等への就職者数

就職先	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	総計
富山県庁	1	1	1		1	1	5
富山市役所	2		1	1	3	4	11
高岡市役所	1	1			2		4
上市町役場	1		2				3
富山県警察	3	2	1	1	2		9
自衛隊	2	1		1			4

(出典：人文学部総務課にて調査)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

本学部の就職率は堅調に推移しており、特に富山県とその近県において、卒業生は多様な業種の企業や官公庁等に就職し、地域社会の中核として活躍している。卒業生が複数年度にわたり採用されている企業等も多いという事実は、本学部の卒業生は企業等が求める能力を十分に身につけていると評価されていることを示している。このことから、本学部は、汎用的な知見・能力を活かして地域に貢献する人材を育成するという地域社会からの期待に十分に答えていると判断できる。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

第1期に比して、以下の点で教育活動の質が向上した。

- ①「基礎ゼミナール」について、学部共通の導入科目として統一的な内容と実施体制を確立した。
- ②新たに海外の7大学と交流協定を結び、協定先は計15大学となった。
- ③新たに1～3年次にわたる体系的なキャリア教育を導入した。
- ④成績評価に対する異議申立て制度を導入した。

また、以下の点で学生指導体制もより充実した。

- ⑤1年生と指導教員の面談実施を徹底し、2～4年生の修学状況を定期的に確認して、学生が抱える問題を早期に発見し対応できる体制とした。
- ⑥種々の困難を抱える学生には、全学の学生支援センター等の協力で学部独自の研修会等を行い、よりきめ細かく対応した。
- ⑦平成27年度から保証人への成績通知を行い、学生指導において保証人との連携をより強めた。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

第1期に比して、以下の点で教育成果の状況が改善されている。

- ①本学部の就職率は平成16～21年度は平均85.1%であったが、同22～27年度は平均92.2%に上昇している（資料3-1）。

資料3-1 人文学部の就職率推移

年 度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	平均
就職率	76.4%	79.3%	87.7%	84.8%	91.2%	91.3%	85.1%
年 度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	平均
就職率	92.5%	88.4%	92.1%	92.6%	95.3%	92.3%	92.2%

(出典：平成16～21年度は大学データベースより抜粋，同22～27年度は人文学部総務課にて調査)

- ②海外の学術交流協定校の数は顕著に増加しており、留学者数と留学先での成果による単位認定申請者数も増加している（資料3-2，3-3）。

資料3-2 平成22年度以降の新たな交流協定校

(1) 部局間協定先

国 名	大学等名	協定締結年月日
韓国	慶北大学校人文大学	2010/07/30
ロシア	モスクワ言語大学	2013/03/22
中国	佳木斯大学	2014/06/19
ベトナム	ハノイ国家大学外国語大学	2015/12/22

(2) 人文学部が協定締結に係った協定先

国 名	大学等名	協定締結年月日
台湾	政治大学	2014/04/14
アメリカ合衆国	ハワイ大学マウイカレッジ	2014/05/27
フランス	オルレアン大学	2015/03/04

(出典：資料1-1-24より抜粋)

資料3-3 学術交流協定校への留学による単位認定申請者数

年 度	申請者数	年 度	申請者数
16年度	5	22年度	17
17年度	9	23年度	12
18年度	11	24年度	17
19年度	3	25年度	28
20年度	3	26年度	19
21年度	17	27年度	29
第1期合計	48	第2期合計	122

(出典：平成16～21年度は人文系支援グループ（平成21年当時）にて調査)

(出典：平成22～27年度は資料2-1-5より抜粋)